

# 新型コロナウイルス感染症に関わる休校・生活制限等による 障害児とその家族の生活困難・ニーズ調査結果報告

## 1、調査目的

新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、その影響が大きいと考えられる障害児やその家族を対象に生活実態調査を実施し、全国一斉休校や外出自粛に加え、学校再開後の生活制限等が障害児の生活と発達にどのような影響を及ぼしているかを明らかにし、今後の課題を考察する。

## 2、調査内容・方法

調査対象：（東京都・埼玉の一部）と北海道特別支援学校の保護者

調査内容：コロナ禍による休校時及び学校再開以降の障害児とその家族の生活困難・ニーズ。具体的には、①子どもの生活面・発達面で心配なこと、②家族の生活での困難の2点について、休校時と学校再開後の調査を行い、障害児の生活と発達に及ぼす影響について考察する。

調査方法：Google フォームによるアンケート調査。北海道内（および東京都・埼玉県内の一部）の特別支援学校の管理職あてに調査依頼を行い、承諾いただいた学校の保護者あてに、（調査趣旨の説明文書を兼ねた）アンケートのQRコードを配布する。QRコードからアンケートに回答していただくことをもって保護者の承諾を得たものとする。調査への回答はあくまでも保護者の任意であり、データは全てWebサイト上で管理され、個人を特定されることはない。調査結果の閲覧は、研究者に限定し、調査終了後はデータを削除し、ネット接続を遮断する。

研究倫理 本研究は、北海道教育大学研究倫理委員会の審査にて承認されている（北教大研倫2020104002号）。

調査期間：2020（令和2）年9月～10月

調査者：北海道教育大学釧路校特別支援教育研究室  
小野川文子、小淵隆司、戸田竜也、木戸口正宏

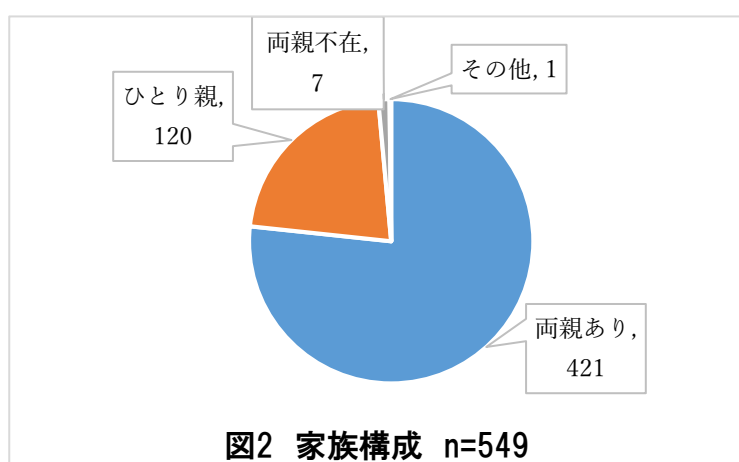
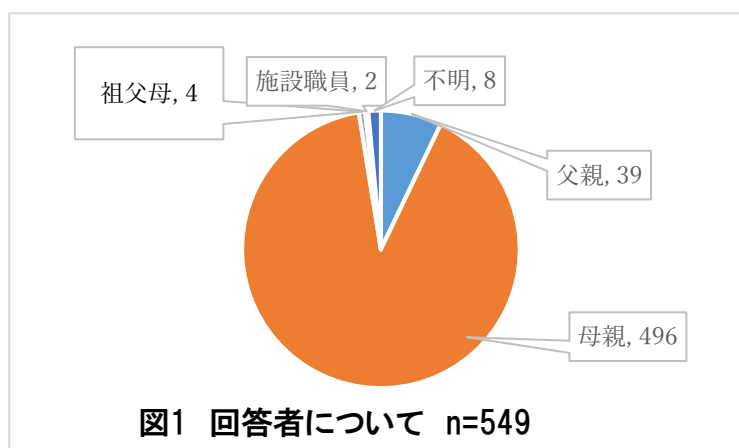
## 3、調査結果

調査対象は、北海道の特別支援学校73校（国公立）に在籍する児童生徒の保護者及び東京都・埼玉県の一部、特別支援学校に在籍する児童生徒の保護者約6,000人（学校への調査依頼時）である。対象者の方々に対しGoogleフォームによるアンケート調査への参加・協力を依頼し、562人から回答があった。不備があったもの（13回答）を除き、549を分析対象とした。

### （1）回答者について

回答者は母親が 496 人 (90.3%) と多く、以下父親 39 人 (7.1%)、祖父母 4 人 (0.7%)、施設職員 2 人 (0.4%)、不明 8 人 (1.4%) (図 1) であった。居住地域は、北海道 468 人 (85.2%)、東京都 31 人 (5.6%)、埼玉県 44 人 (8.0%)、その他・不明 6 人 (1.1%) である。

家族構成は、「両親あり」421 人 (76.7%)、「ひとり親」120 人 (21.9%)、「両親不在」7 人 (1.3%) (図 2)。祖父母と同居は 63 人 (11.5%) だった。

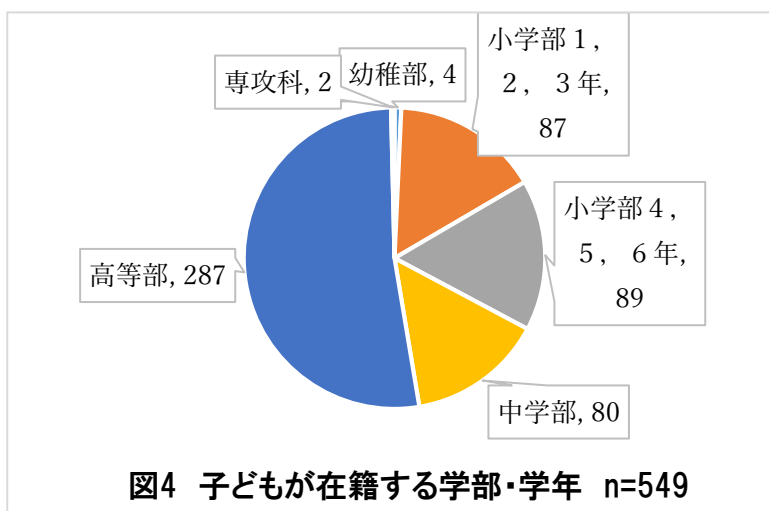
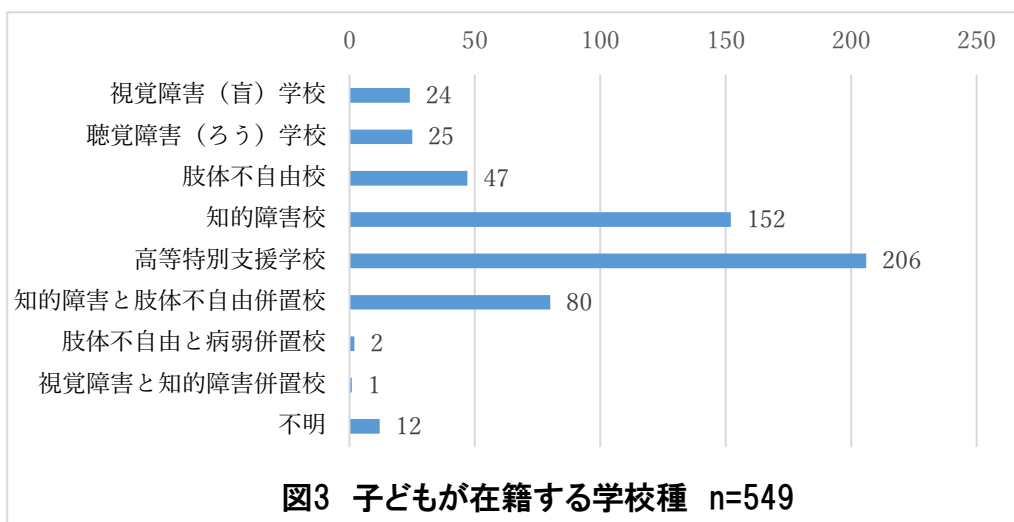


## (2)子どもについて

### ① 在籍する学校種と学年

子どもが在籍している学校種は、高等特別支援学校が一番多く 206 人 (37.5%)、次に知的障害校 (小・中ないしは小・中・高等部) 152 人 (27.7%)、知的障害と肢体不自由併置校 80 人 (14.6%)、肢体不自由校 47 人 (8.6%)、聴覚障害 (ろう) 学校 25 人 (4.6%)、視覚障害 (盲) 学校 24 人 (4.4%) と続き、知的障害校に在籍している子どもが圧倒的に多かった (図 3)。

学部・学年は、幼稚部 4 人 (0.7%)、小学部 1~3 年 87 人 (15.8%)、小学部 4~6 年 89 人 (16.2%)、中学部 80 人 (14.6%)、高等部 287 人 (52.3%)、専攻科 2 人 (0.4%) で半数以上が高等部生であった (図 4)。

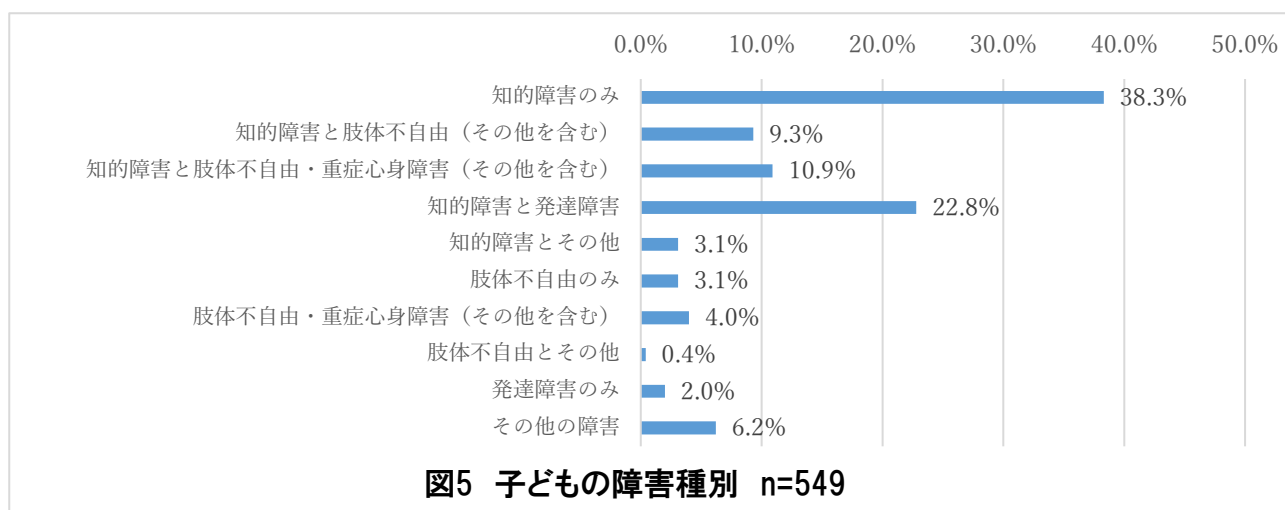


## ② 障害種と障害程度

子どもの障害では、「知的障害のみ」は 210 人（38.3%）と一番多く、次いで「知的障害と発達障害」125 人（22.8%）、「知的障害と肢体不自由、重症心身障害（その他を含む）」60 人（10.9%）、「知的障害と肢体不自由（その他を含む）」51 人（9.3%）、「肢体不自由・重症心身障害（その他を含む）」22 人（4.0%）、「知的障害とその他」17 人（3.1%）、「肢体不自由のみ」17 人（3.1%）、「発達障害のみ」11 人（2.0%）、「肢体不自由とその他」2 人（0.4%）、「その他」は 34 人（6.2%）となっている（図 5）。

障害程度を取得している障害者手帳で判断できる 515 人でみると、「療育手帳 A 判定」「身体障害者手帳 1 級」「重症心身障害」のいずれかに該当する「重度」と思われる子どもは 298 人（57.9%）、「療育手帳 B 判定」「身体障害者手帳 2 級以下」に該当する「中軽度」と思われる子どもは 217 人（42.1%）である。全体としては重度児の割合が多い。その他は、障害程度としては判断できない「視覚障害のみ」15 人、「聴覚障害のみ」19 人となっている。

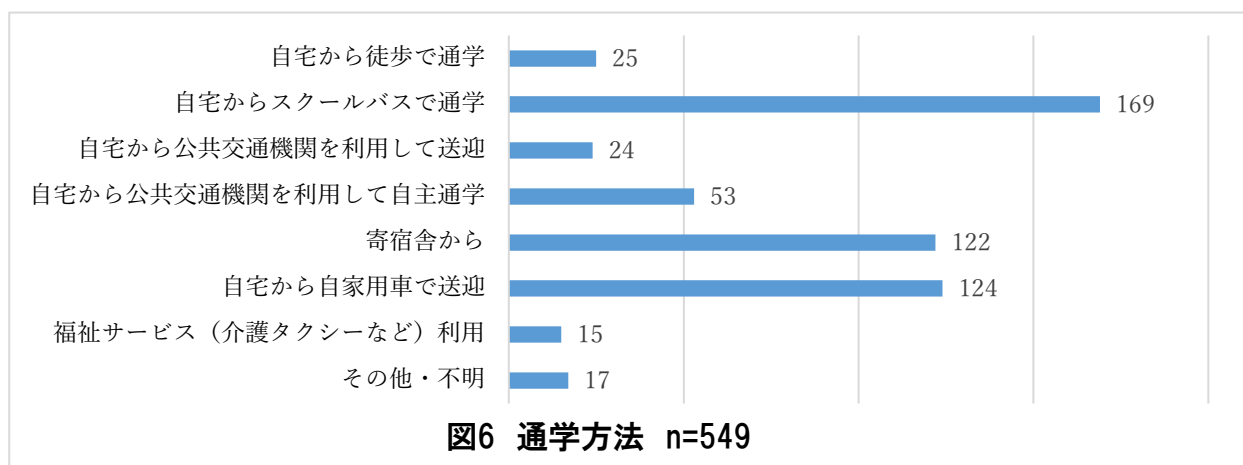
複数の障害を併せ持つ子どもは、283 人（51.5%）と半数以上を占め、そのうち 3 つ以上重複している子どもは 66 人（12.0%）である。また、重症心身障害の子どもで「医療的ケアあり」と回答した人は 38 人（6.9%）である。



### (3)通学方法と福祉サービスの利用状況

通学方法としては、「自宅からスクールバスで通学」が169人（30.8%）と一番多く、次いで「自宅から自家用車で送迎」124人（22.6%）、「寄宿舍」122人（22.2%）、「自宅から公共交通機関を利用して自主通学」53人（9.7%）と続く（図6）。「自宅から公共交通機関を利用して送迎」が24人（4.4%）いることから、保護者の送迎による通学が148人（27.0%）と3割近い。広域である北海道の保護者が多いことが考えられるが、まだまだ保護者の負担は大きい。今回の調査では、「公共交通機関の利用は感染リスクが高い」や「スクールバスも3密が避けられない」として、保護者の送迎に切り替えた人も自由意見から見られた。

「日常的に福祉サービスを利用しているか」について「あり」と回答した人は381人（69.4%）と7割の人が何らかの福祉サービスを利用していた。具体的な福祉サービスの内容は、「放課後等デイサービス」が348人（91.3%）と9割以上を占め、障害児の放課後支援のニーズの高さがうかがえる。その他の福祉サービスは1割も満たない（図7）。福祉サービスの利用が「ない」と回答した人は166人（30.2%）であった。



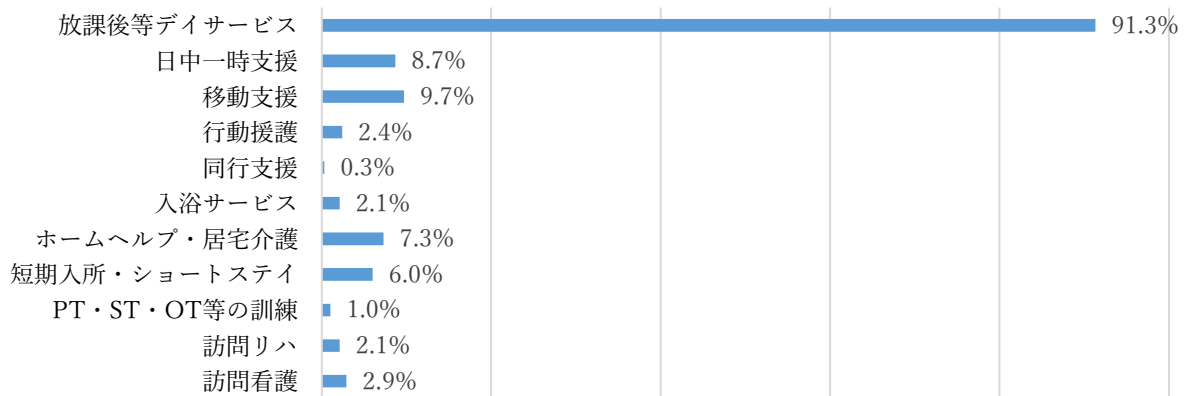


図7 日常的に利用する福祉サービスの内容(複数回答)  
n=381

#### (4)休校時の子どもの居場所や一緒に過ごした人

学校が休校している間(8時～18時)で一番多く過ごした場所と二番目に多く過ごした場所について図8に示した。一番多くの時間を「自宅」で過ごした人は428人(78.0%)と8割近くを占め、次いで「放課後等デイサービス」90人(16.4%)であった。一番目を「放課後等デイサービス」と回答した人の多くの人が二番目は「自宅」と回答しており、どちらかを「自宅」と回答した人は523人(95.3%)だった。「自宅以外」の場合は「祖父母や親せきの家」や「母親の職場」といったケースであり、障害児を預けられる公的機関の少なさがうかがえる。また、一番目も二番目も「自宅」とした保護者は198人(36.1%)であり、3人に1人は自宅以外に過ごす場所がなかったことが推察される。

休校中、いっしょに過ごした人で1番多かったのが「母親」369人(67.2%)、次いで「きょうだい」77人(14.0%)、「祖父母」24人(4.4%)、「子ども一人」23人(4.2%)であった(図9)。「きょうだい」ないしは「子ども一人」といったケースは100人(18.2%)となり、2割近くは子どもだけで過ごしていた。

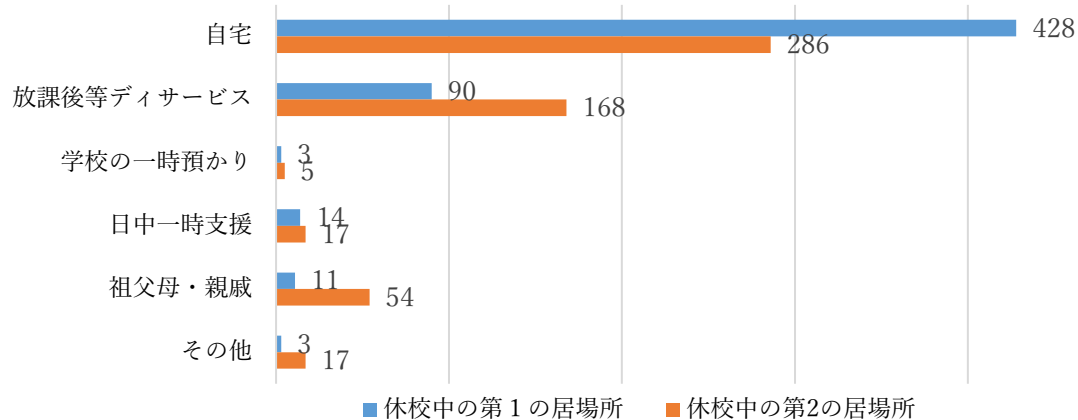
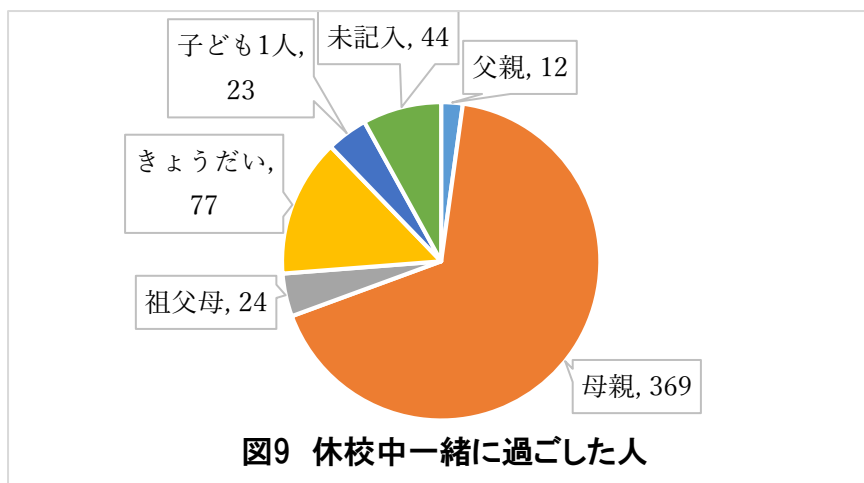


図8 休校中(8時～18時)の居場所



#### (5) 休校中の子どもの生活についての悩み、困りごと(複数回答)

休校中の子どもの生活についての悩み、困りごとの上位 10 項目を表 1 に示した。上位項目をみると、運動不足やテレビやネットへの依存傾向、睡眠時間や食生活の乱れが多い。また、運動不足による体力の低下や行動制限によるイライラやパニックといった心身面での影響が上位を占めた。さらに、人と接する機会が減り、「自ら出たがらない」といった子どもも多かった。

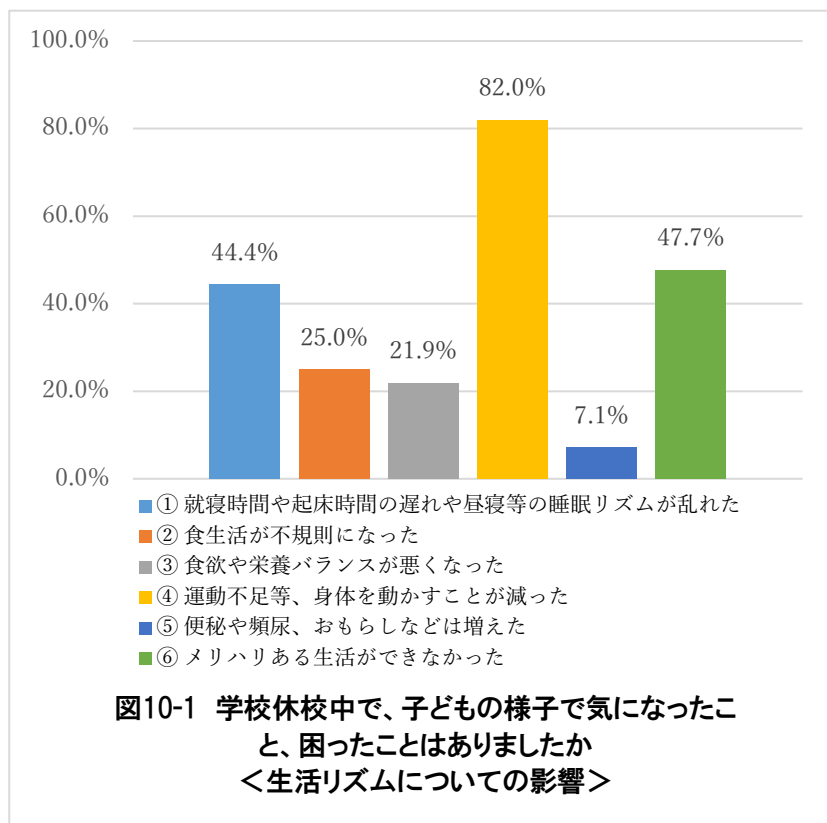
表1. 休校中の子どもの生活についての悩み、困りごとの上位 10 項目

|                                 |       |       |
|---------------------------------|-------|-------|
| 運動不足等、身体を動かすことが減った              | 450 人 | 82.0% |
| テレビやネットに使う時間が増えた                | 377 人 | 68.7% |
| 友達や家族以外の人と接する機会が減り、自宅から出たがなくなった | 311 人 | 56.6% |
| メリハリある生活ができなかった                 | 262 人 | 47.7% |
| 運動不足などにより体力の低下や身体面での影響が心配       | 257 人 | 46.8% |
| 就寝時間や起床時間の遅れや昼寝等の睡眠リズムが乱れた      | 244 人 | 44.4% |
| 行動制限や自由にできない等でイライラやパニックなどが増えた   | 153 人 | 27.9% |
| 食生活が不規則となった                     | 137 人 | 25.0% |
| 食欲や栄養バランスが悪くなった                 | 120 人 | 21.9% |
| 自宅での勉強では学習の遅れや理解度に不安がある         | 120 人 | 21.9% |

#### ① 生活リズムについての影響

子どもの生活リズムについて一番多かったのは「運動不足等、身体を動かすことが減った」82.0%と突出して多く、8 割以上の保護者が困っていた。通常時においても、外出困難や様々な体験をする機会が少ない障害児においてはとても深刻な状況である。次に多かったのは「メリハリある生活ができなかった」47.7%、「就寝時間や起床時間の遅れや昼寝等の睡眠リズムが乱れた」44.4%と、半数近い保護者が生活リズムに関する心配をしていた。また、「食生活が不規則となった」25.0%、「食欲や栄養バランスが悪くなった」21.9%と 2 割以上の保護者が食事に関する心配をしていた (図 10-1)。

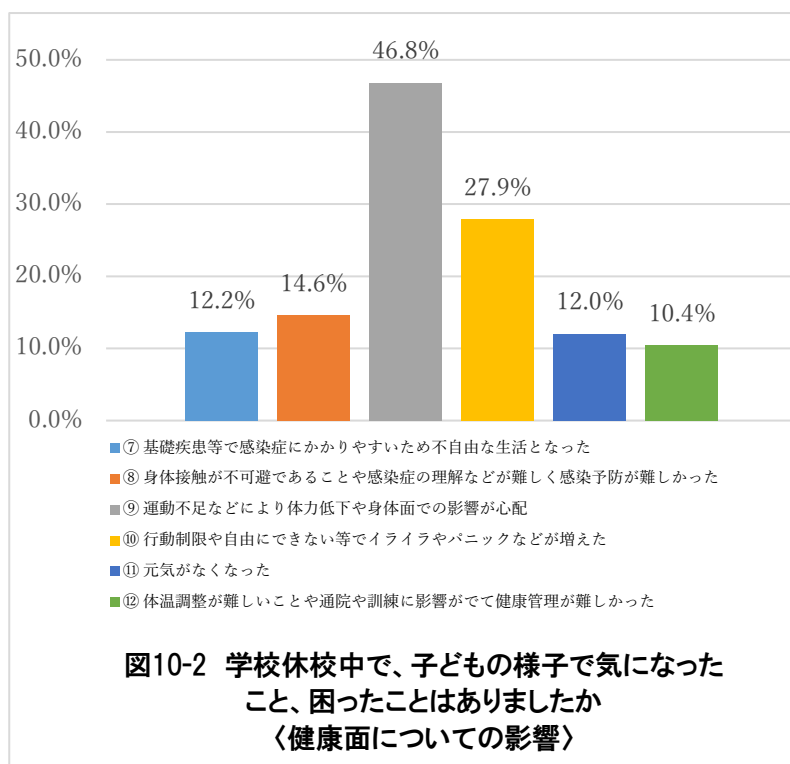
自由意見では、運動不足等から「体重増」あるいは「体重減」、「筋力の低下」等を心配する声が多かった。



## ② 健康面についての影響

健康面で一番多かったのは「運動不足などにより体力低下や身体面での影響が心配」46.8%と半数近い保護者が心配をしていた。発達に困難を抱える障害児においては深刻な問題である。二番目に多かったのは「行動制限や自由にできない等でイライラやパニックなどが増えた」27.9%で心理的影響も3割近い保護者が感じていた（図10-2）。

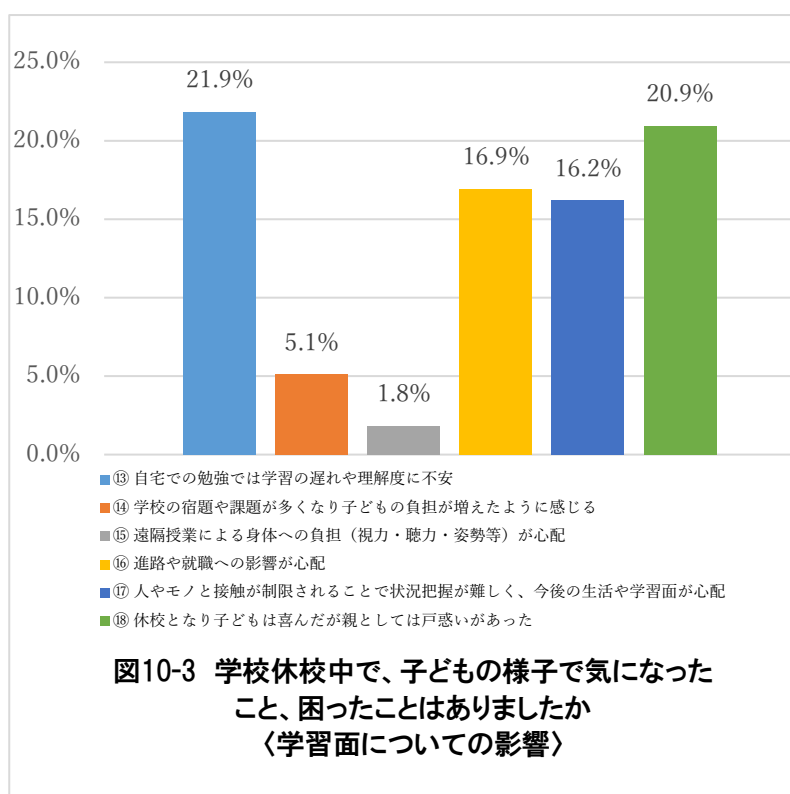
自由意見では、イライラや情緒不安定、「チック」といったメンタル面での影響が多く述べられていた。特に気になる点としては、「パニック」「自傷行為」「暴力的行動」「便いじりなどの自己刺激が増えた」などの「問題行動」が現れたり、「コミュニケーション力の低下」「身辺自立面での後退」等、発達面での影響も多く、さらには「てんかん」「音や光の過敏の進行」など病気や障害の進行もみられ、深刻な状況がうかがわれる。



### ③ 学習面についての影響

学習面についての影響で一番多かったは、「自宅での勉強では学習の遅れや理解度に不安がある」21.9%、次いで「休校となり子どもは喜んだが親としては戸惑いがあった」20.9%、「進路や就職への影響が心配」16.9%、「人やモノと接触が制限されることで状況把握が難しく、今後の生活や学習面が心配」16.2%と続く（図 10-3）。2 割の保護者が自宅学習での不安を感じていた。学校の課題や遠隔授業等の心配は少なかったが、そもそも特別支援学校で課題や遠隔授業の実施が少なかったことが予測される。

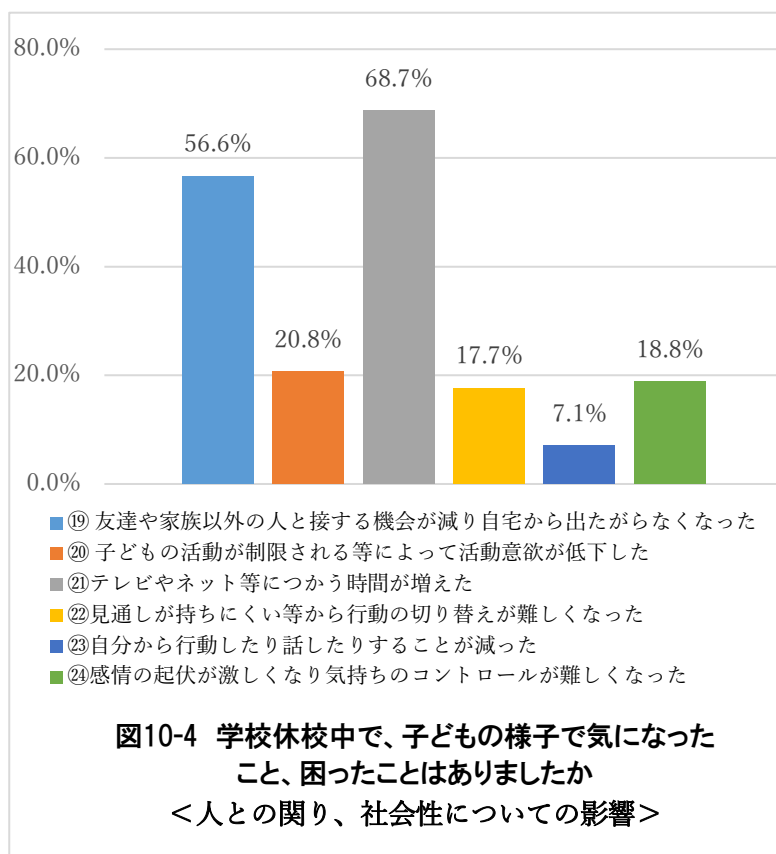
自由意見では、「自宅学習は全盲ろうなのでプリントやネットを使うものは元々できず、先生との対面授業が受けられないと学習が出来ないです」といった切実な声や実習ができず就職をあきらめたというケースもあった。



#### ④ 人との関り、社会性についての影響

人との関り、社会性について一番多かったのは「テレビやネット等につかう時間が増えた」68.7%、次いで「友達や家族以外の人と接する機会が減り自宅から出たがらなくなった」56.6%であった。平時においても外出困難、家族以外の人との関りが少ない障害児においてはとても深刻な状況だと思われる。また「子どもの活動が制限されること等によって活動意欲が低下した」20.8%、「感情の起伏が激しくなり気持ちのコントロールが難しくなった」18.8%、「見通しが持ちにくい等から行動の切り替えが難しくなった」17.7%等、2割近い保護者は子どもの活動意欲の低下、気持ちや行動のコントロールが難しくなったと感じていた（図10-4）。

自由意見でも「スマホが手放せなくなった」「ゲームがやめられない」「会話の内容がテレビやYouTubeのことばかり」などが記述され、テレビやネットへの依存が心配される。また「異性関係」の心配もあった。



## <自由意見>

### a. 子どもの心身への影響（25 件）

- ・外遊びも出来ない状況だったので、運動不足による体重増加が気になった。やはり、その後の定期診察で、中性脂肪が増加していた。
- ・家の中では常に使っている何気ない筋肉すら落ちてしまい、出来ていた事ができない、または時間がかかるなど身体的な問題があった。
- ・肢体不自由なのですが、家では四つ這いで移動してしまうことが多く、もともと少ない筋力が大分落ちてしまった。
- ・体重の増加・肥満（複数）
- ・体力が落ちた。
- ・目に見えない、コロナウイルスという事案から、理解する事も認識する事もできず、苛立ちが強くなり、食欲が極端に減り、体重減少などが起こった。
- ・デイサービスにも行けない時期は、とても行きたがっていてストレスが溜まっていたようだった。家庭とデイサービスでバランスをとっていたようです。
- ・休校の意味が分からないので毎朝登校時間にパニックを起こしていた。
- ・デイサービスさんも利用が制限され、学校も休校になり、生活リズムが大きく変わり、両親共に自宅にて仕事もあり外出出来ない事からの苛立ちや体が固まってきてしまったりと心身共にストレスを感じている事が目に見えて分かってきた。
- ・夜間呼吸器を使用しており、感染のリスクが高いことから、人との接触を減らし、ショートや放課後

等デイサービスにも行けず、精神面で不安定になり突然泣くことが増えました。

- ・死というワードに敏感になった。泣くこともある。
- ・感染者数をニュースで見えるようになり不安。精神的に不安定になり体調を崩しやすくなった。
- ・コロナ感染の心配を親がしているのを見て本人も不安がるようになっている。
- ・自宅で親がやる事出来る事に限度があり子供も飽きてしまう。
- ・「いつもどおり」買い物や外出まで出来ないことからイライラが多くなって説明しようにも目に見えないウイルスの説明は理解が難しかった。
- ・コロナのニュースを見ると、不安になり情緒不安定になる。
- ・コロナウイルスに対する恐怖心があり、全ての事に過剰に反応する。
- ・見通しが立てず、不安定になっていた。
- ・1人になる事が怖いとの事で母がトイレに行くさいも泣いてしまうほど不安な様子です。
- ・マスクをほぼ1日中しているので少しストレスがあると思います。
- ・入学したばかりで戸惑いばかりでした。
- ・気持ちを言葉で言えないので、親も本人も疲れてやる気の無い時間が増えました。辛かったです
- ・持病が、悪化しました。
- ・リハビリが通えず、体に悪影響が凄かった。
- ・外部との断絶でネット以外での目や耳から入る情報が減ること。逆にネットでは情報が溢れ、何が正しい情報なのか見極めるのも困難。外気に触れないことで免疫力や体力低下の心配。

#### **b. 発達面や行動面で気になったこと（27件）**

- ・行動を制限されることで暴力的になることが増えた。
- ・てんかんの発作が増えた（2人）。
- ・自傷が増えた（3人）。
- ・外に出られないストレスでチックが再発した。
- ・チックが増えた。
- ・1人や兄弟だけになる事で、ケンカも増えて、世の中の事もあまり理解出来ず、今まで出来てきたことが、振り出しに戻ってしまった感じになってしまった。
- ・休校前は、大はトイレですることがまあまあできていたが、休校後はできなくなった。
- ・便いじりなど、困った自己刺激が増えた。
- ・コミュニケーションの低下。
- ・自粛中に家にこもりきりになってしまったので、音と光の過敏が進んでしまい、外に出られなくなった。9月20日現在家で過ごす時も夜でも光を嫌がり、真っ暗闇の中で暮らしている。
- ・自傷行為や異食が激しくなったため、身体が心配になった。
- ・他人が近寄るだけで嫌悪感が凄い。
- ・不安から繰り返し行動が増えた。
- ・思い通りの行動ができずパニックになり奇声や暴れ、破壊がより一層増えた。
- ・独り言が増えた（トイレ中、お風呂時間、自室で寝る前など）。
- ・気持ち切り替えができず、外へ逃げ出すようになった。

- ・自分ルーティンを満喫して融通が効かなくなった。
- ・自宅では常に遊んであげられず、暇だったのか、手を舐める行為が増えた。このコロナ禍で手を舐める行為を見ると親としては心配な気持ちが過ぎて、それがとてもストレスに感じた。
- ・小6という思春期準備の大切な時期、また、地域学校と違い且つ、同級生が少ない聴覚障害児には、感情の成長や人間形成、また、生涯において、大切な思い出作りにより心の支えとなろう大きな要素の学校イベントが根こそぎ剥ぎ取られたのが残念と思うと共に、子どもが不敏でたまらないです。また、各種イベントでの創意工夫や責任感の醸成、仲間との協調醸成ができないことは、大きな損失と考えます。

リスクマネジメントは大切ですが、後退的なリスクマネジメントでなく、前進的なリスクマネジメントにより安易な妥協に甘んじることなく、各種教育機関、各教育者におかれましては更に献身的な努力をもって各種イベントの再興をして下さい。修学旅行、運動会、文化祭は聴覚障害児にとっては人生における最重要のイベントです。

- ・異性との関わりが困っている。
- ・自営業のため休校中子供にかまってあげられず不安やストレスが多いように感じ、いつもより他人の意見を聞き入れなくなってしまって生活に苦労した。
- ・子どもの笑顔が減った。
- ・卒業式が無くなり、高等部へ進学したということが本人に分かりづらかった。先生や友達が違う、という理由で4月から学校へ行かなくなった。やりたいことが出来ない理由に、誰もがコロナと言うが、本人意味が分からずに怒っていた。ストレスのため、自宅で暴れる日が続いた。

### c. 生活リズム等への影響（11件）

- ・学校が休校になり、リズムが崩れ、兄弟との接触やパニックが多かった。
- ・就寝時間が、どんどん遅くなり必然的に朝起きれず食生活が乱れるといった悪循環でイライラしたり口調がキツイと感じる事が多かった様に思う。また兄妹は学校の宿題をしたり、趣味に時間を使ったり、ジョギング、自転車、からだを動かしたり次第に自分で過ごし方を身につけていましたが、やはり自分でそれを見つけることが難しそうでした。
- ・前はそれほどゲームをしなかったが、ゲームやスマホゲームが手放せなくなってしまった。
- ・ゲームが止められない。
- ・会話の内容がテレビやYouTubeのことばかりになった。
- ・体を動かす機会が減り、寝つきが悪くなった。
- ・給食をお代わりするくらい食欲旺盛な子でしたが、緊急事態宣言後から、お代わりしなくなりました。
- ・家でこもって4日目に昼夜逆転した。
- ・家ででのんびり過ごしていましたが、退屈になっているようでした。
- ・外出ができなくなったことにより生活が単調になった。
- ・夜の睡眠サイクルがずれて、未だに治りません。

### d. 学習面での心配（6件）

- ・リモート授業を取り入れる事を楽しみにしていて意欲的だったのに、結局一度も行われず、プリント

課題のみだったので、子供のやる気が一気に下がりました。

- ・勉強まったくおぼえない。
- ・学習について計画的に行う事が難しかった。
- ・学校一時預かりを利用させてもらい本当に生活は助かりました。一時預かりでは教育は(学習は)うけられず、自宅学習は全盲ろうなのでプリントやネットを使うものは元々できず、先生との対面授業が受けられないと学習が出来ないです。教育を受けられる貴重な時間は休業で失い、後に捻出された授業数は少ないと思いました。重度障害児は教育に時間がかかり、時間をかけるべきなのに健常児と同じ教育期間しか与えられていませんが、その大切な時間をコロナで失い、諦めるよりなくとても残念に思っています。
- ・子供が甘えてて、できていた事もやらなくなった。
- ・就職に向けての活動(実習) など制限され、思い通りの就職を諦めざるをえなかった。

#### **e. 外出困難（6 件）**

- ・子供も全く自宅からだしてあげられずかわいそうだった。
- ・マスクができない(鼻口をふさがれる事におびえる)ため、外出がしにくい。
- ・外への行き渋りがひどくなり、今も続いている
- ・コロナのニュースばかり見ていて不安になり外に出る事を怖がっていた。
- ・外に出たらコロナに感染するかも、と怖がっていた。
- ・家から出たがらなくなった。

#### **f. 学校再開に向けての心配（6 件）**

- ・自宅が快適になり学校再開の際に気持ちの切り替えが出来るのか不安だった。
- ・休みが長期化したことで、学校へ通うことへの意欲が低下し、又担任との信頼関係が構築できず、学校生活に馴れるまでに時間がかかり大変でした。
- ・入学してすぐ休校になったので、学校生活に慣れていけるか心配だった。
- ・入学してすぐに休校になったため、開校してから学校生活、クラスメイトとの関わり方などに慣れるのに時間がかかった。
- ・休校明けから不登校になった。
- ・本人の予定になかった休校で、自宅にいた時間が長かった為、学校や寄宿舍、デイサービスへ行く、という概念がリセットされてしまった。登校が始まり、また 1 からのスタートで、理解できない本人へのストレスははかりしれない。

#### **g. 感染予防困難（5 件）**

- ・マスクを正しく装着することが難しい(感覚過敏、こだわり)。
- ・本人がマスクをつけることが難しい上に、最初は人がしているのも取ろうとしたり、貴重なマスクを破かれたりして困った。
- ・感染症に関して理解が難しく、完全に予防する事が出来ません。
- ・マスクを嫌がる（2 人）。

#### h. その他（4 件）

- ・兄妹は友だちと連絡を取り、話をしたり、お互いの自宅を行き来したりしていましたが、それをできる友だちが近くになくて、羨ましそうだったのがかわいそうに思いました。
- ・大好きだった学校へ突然行けなくなり、戸惑っていた。
- ・友達とまったく接する機会がなくなったため、毎日がかなりつまらなそうでした。
- ・学校で生活する方が本人にとって身体にも心にも良いということを改めて知りました。

#### i. プラスの意見（2 件）

- ・学校生活を送るよりも充実していた。
- ・外出しないので、感染症になりにくく、逆に健康だった。

#### （6）休校中の家族の悩み、困りごと（複数回答）

休校中の家族の悩み、困りごとの上位 10 項目を表 2 に示した。ほとんどの保護者は子どもの介助を含め養育全てを担っていることから、「隔離生活などできない」「自分が倒れられない」といった精神的に張り詰めた状態であり、子どもと 1 日過ごすことで、自身の行動にかかわる不自由、気分転換の難しさやストレスが大きかったことがうかがわれる。また、家族以外の人と関わる機会が減るなど「孤立」しやすい状況もあったと思われる。

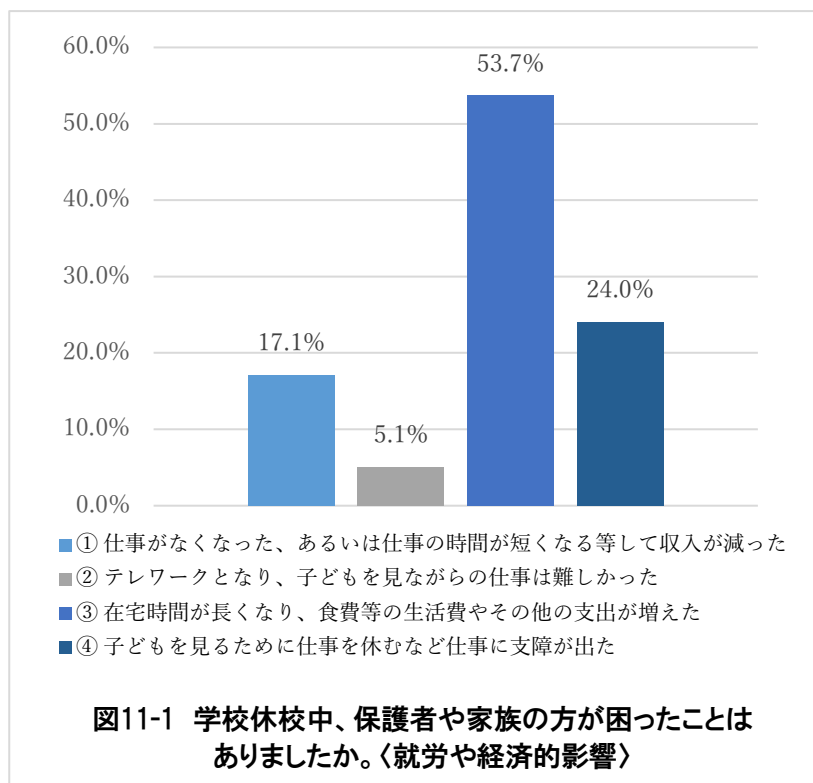
表 2 休校中の家族の悩み、困りごと上位 10 項目

|                              |       |       |
|------------------------------|-------|-------|
| 子どもや自分が感染しても隔離生活などできない       | 328 人 | 59.7% |
| 家族以外の人と関わる機会が減った             | 300 人 | 54.6% |
| 在宅時間が長くなり、食費等の生活費やその他の支出が増えた | 295 人 | 53.7% |
| 気分転換がなかなかできなかった              | 281 人 | 51.2% |
| マスクなど衛生用品が手に入らず困った           | 248 人 | 45.2% |
| 子どもを家で 1 人にできないためいろいろ不便が生じた  | 238 人 | 43.4% |
| 自分が倒れられないなど精神的に張り詰めた状態が続いた   | 235 人 | 42.8% |
| 家事負担や介助負担が増えた                | 233 人 | 42.4% |
| 自分が子どもに感染させるのではないかが心配だった     | 228 人 | 41.5% |
| この先のことがわからず不安だった             | 216 人 | 39.3% |

#### ① 就労や経済的影響

保護者の就労や経済的影響で突出して多かったのが「在宅時間が長くなり、食費等の生活費やその他の支出が増えた」の項目で 53.7%と半数以上を占めた。その他、「子どもを見るために仕事を休む等仕事に支障が出た」24.0%、「仕事がなくなった、あるいは仕事の時間が短くなる等して収入が減った」17.1%と子どもの養育困難が就労に影響を与えたり、経済的影響も少なくないことが分かった（図 11-1）。

自由意見では、障害児を家で見ながらのテレワークの困難だけでなく、「中学部だからとテレワークが認められなかった」など、感染予防として呼びかけられていたテレワークすら障害児の場合は困難であることも分かった。子どもを預けることが出来なくて「失業」といったものや、「1人での留守番」「仕事の合間にトイレ介助」を余儀なくされた保護者もいた。



## ② 保護者の生活(外出、自分の時間)についての影響

保護者の生活についての影響で一番多かったのは「子どもや自分が感染しても隔離生活などできない」59.6%、次いで「家族以外の人と関わる機会が減った」54.6%、「マスクなど衛生用品が手に入らず困った」45.2%、「子どもを家で1人にできないためいろいろ不便が生じた」43.4%と多くの項目で半数近い保護者が困っていた(図11-2)。年齢が高くなっても介助等で離れられない障害児の独自の困難がうかがえる。「マスクの着用」「三密を避ける」「社会的距離」といったこと事態が困難な障害家庭においては、かえって保護者を追い詰め、困難を深刻化させることになると思われる。

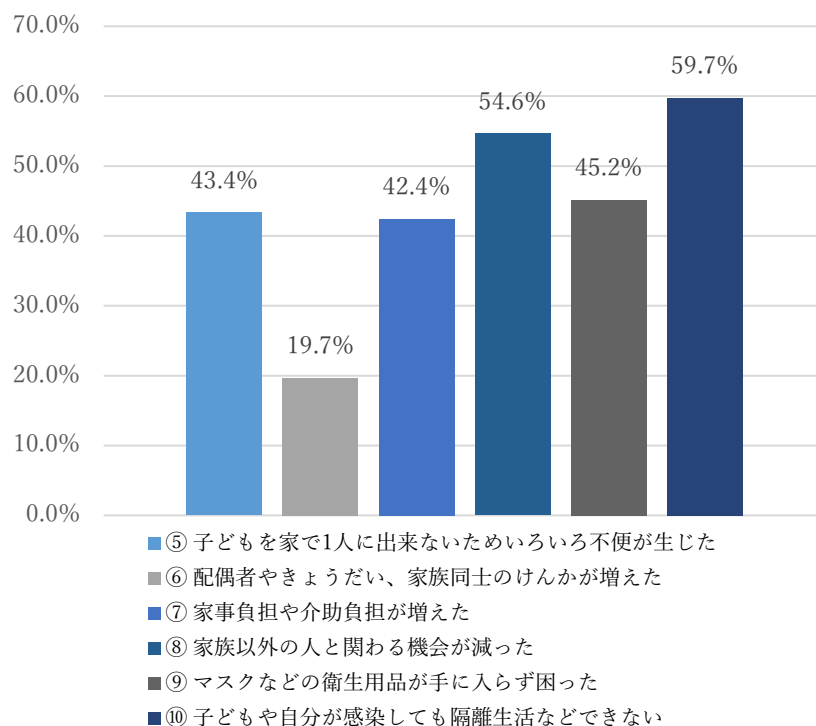


図11-2 学校休校中、保護者や家族の方が困ったことはありませんか。  
＜保護者の生活(外出、自分の時間)についての影響＞

### ③ 保護者の健康面での影響

保護者の健康面での影響で一番多かったのは「気分転換がなかなかできなかった」の項目で51.2%と半数を超えた。次いで「自分が倒れられないなど精神的に張り詰めた状態が続いた」42.8%、「自分が子どもに感染させるのではないかが心配だった」41.5%と続き、4割以上の保護者が精神的に張り詰め、不安感が大きかったことが示された（図 11-3）。多くの障害児の場合は年齢が高くなっても介助が必要であり、常に目が離せないケースも少なくない。しかも、子どもの年齢が高くなればなるほど親は高齢化し介助負担が大きくなる。ましてコロナ禍において子どもが不安定になったり、「問題行動」が現れたりすることが自由意見でも述べられており、その負担の大きさは十分推察される。

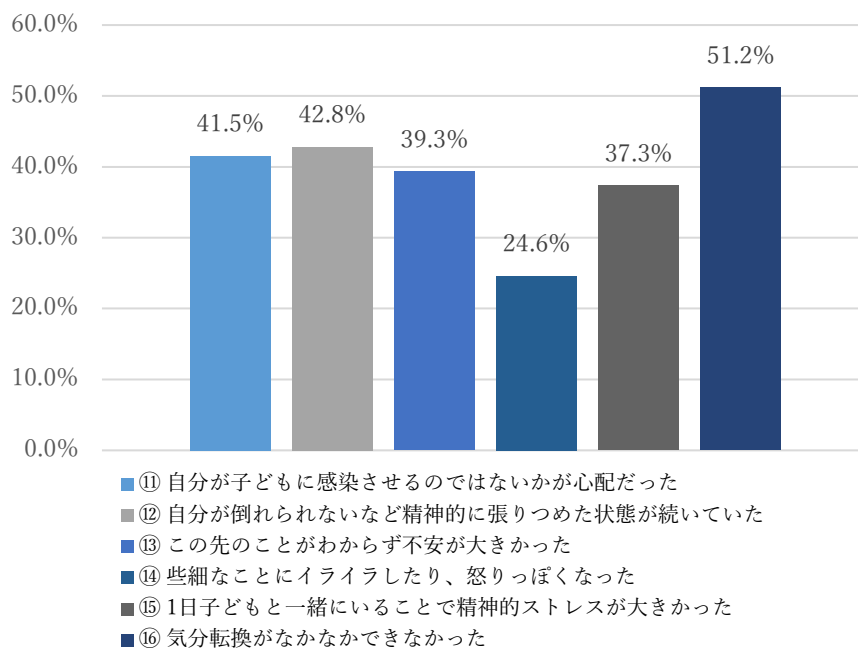


図11-3 学校休校中、保護者や家族の方が困ったことはありましたか。＜保護者の健康面についての影響＞

#### ④ 親子関係についての影響

親子関係についての影響は、相対的に少なかったが、その中で一番多かったのは「子どもが親にイライラなどをぶつけることが増えた」18.6%であった。また、7人に1人の保護者は、「厳しく当たったり叱ったりすることが増えた」「以前より子どもに対して子どもに対して過保護になった」と回答した（図11-4）。保護者の精神的不安やストレスが子どもにも少なからず影響を与えていると思われる。

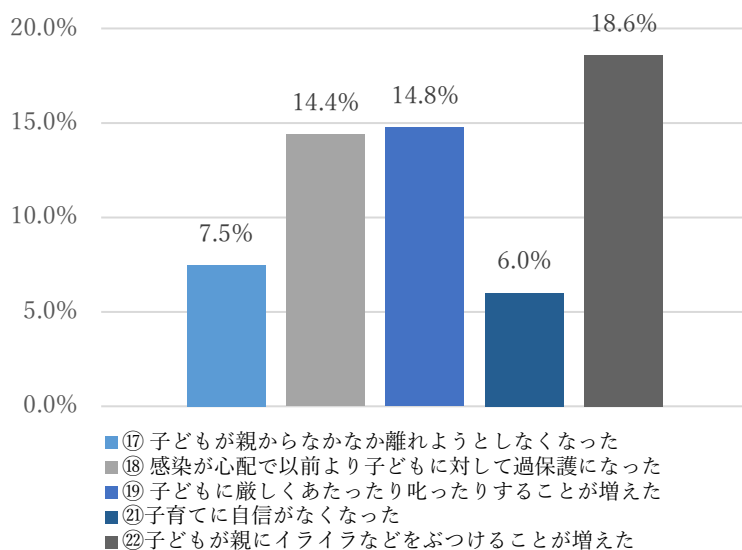


図11-4 学校休校中、保護者や家族の方が困ったことはありましたか。＜親子関係についての影響＞

## ＜自由意見＞

### a. 養育者の就労困難（11 件）

- ・高等養護学校入学を機に就労する予定だったが働けなくなった。
- ・デイサービスが休みになり仕事を休まざるをえなかった。仕事がたまり、主人が居る日曜日に休日出勤するしかなかった。
- ・仕事を休まざるをえないため、残業しなければならなく両立が困難であった。
- ・北海道の緊急事態宣言によりデイサービスも休所となってしまう、一人で留守番させることができず仕事を休むしかなかったが、医療従事者のため長期の休みは難しく、親族にも休みを調整してもらいなんとかのりきった。
- ・シングルマザーなので、仕事が困った。幸い、事故欠勤という扱いにしてもらえて何とか切り抜けた。子供は可愛いので1日一緒にいることは楽しいけど、障害があるため一人に出来ないため、仕事も休むしかなく色々と支障が出てきた。
- ・母子家庭で、夏休み、冬休み、春休みがある為、決まった仕事につけないでいるので、かなりのストレスになっています。
- ・子供が支援学校通学だが中学部だからとテレワークが認められなかった。（資料には支援学校在学の子供がいる場合はテレワーク可だった）
- ・障害があるから面倒を見てもらえず自宅で監禁状態。なので親も失業した。
- ・暴言・暴力をふるうので、子供たちだけを家においておくことができず、頼れる人もいないのでやむをえず仕事を辞めるしか選択がなかった。
- ・仕事も長期で休まなければならなかったり、行けるようになっても時間が短縮になり職場にも迷惑をかけているという気持ちが大きかったです。
- ・仕事を探そうと思っていた時期と重なり、就職活動が出来ず再就職に影響が出た。

### b. 経済的負担増（6 件）

- ・マスクが高い。箱買いできず、毎月のマスク代が負担です。
- ・衛生用品をいつもより高い値段で購入するしかなく、金銭的にどんどん苦しくなってきた。
- ・子供の将来を考えたら、少しでも預金しておかなければいけなく、休んでいる時間はないのに、仕事に行けなく収入がだいぶ減ってしまっている。
- ・肌が弱く、肌に優しいマスクを購入しなくてはならなくて出費がかさむ。
- ・テレワークなどとはできない仕事の為、夫婦交代で子供の面倒をみるしかなくその分収入が減ったため大変でした。
- ・一緒に部屋でリモートワークしながら子どもと過ごすのは無理だったので、部屋の模様替えをして出費が増えた。

### c. 外出困難（6 件）

- ・コロナの期間に手術があり、自宅から全くださなかったし、家族もとにかく不要な外出を控えていたのに市役所などには手続きなど行かなくていけない用事が多く困った。電子化に早くなってほしいと本当に思いました。

- ・どこにも出られなく太陽を浴びる時間が少なかった。買い物、病院にも人に頼んで薬取りに行ってもらったりして余計自由に出られなかった。
- ・マスクを嫌がり自傷行為がはじまるので、できず、外出や通院で困った。
- ・子供がマスクを付けるのを嫌がるので公共の場に行きづらくなった。
- ・留守番ができないため子連れで買い物せざるを得なかったが、スーパーの営業時間の短縮もあり、レジが長蛇の列で大変だった。レジ待ちの時に床に手をついて、その手で目をこすったりするので、感染も心配だった。
- ・マスク着用が難しいため外出できず散歩や公園にも行きづらかった。

#### **d. 家族関係への影響（17 件）**

- ・父親が単身赴任で道外から長期間帰ってこられず、父も子も寂しい思いをしました
- ・受験生がおり、障害のある子供が理解できずに、勉強の邪魔をするので困りました
- ・主人が単身赴任なのですが、自粛中は家に帰ってくることができずいつ帰ってくることができるのか想像がつかず不安だった
- ・家族崩壊の危機にさらされた。
- ・家族全員のストレスで、皆不安定になった
- ・障がいのある子供がいる時はやること出来ることが制限され家事にも支障がでる。兄弟間でも亀裂がでてしまう。
- ・きょうだいの仲が悪くなった
- ・兄弟にも影響があった。
- ・仕事の休みが取れず、きょうだいに負担がかかった。
- ・在宅で仕事をしている為、緊急事態宣言中は兄弟にも頼らざる得なくなる時間がいつもより大幅に増え、家族みんながイライラしていた。
- ・祖父母にみてもらう時間が長くなり、負担をかけた。
- ・三世同居のため、子どもや自分（母親）が祖父母にうつすのではないかと不安だった
- ・仕事をしているため、祖父母への負担が増えた
- ・家族間でコロナウイルス対策の差がでた。母親、姉は細かい事まで徹底しているが、父親があまり気にしていないようで協力的でない。けんかまでいかないが毎回気分が悪い。
- ・家族間や身近な人との心構えの差異。仕事が休みになった危機感の薄い親戚がたびたび訪ねてきて困った。
- ・極度の心配性の父親と普通に心配性の母親(私)で意見がまとまりません。結局デイサービスも利用できず(心配性の父親の意見)、ひたすら「家にいるだけ」。命を守るためにそれが一番、と言われるとどうしようもなく、自分も出掛けられずの日々。
- ・父親がコロナの危険性を重視せず、咳エチケットもしないで腹が立った

#### **e. 養育困難（9 件）**

- ・母親から離れず、親が何も出来ない日が何度かありました。
- ・子どもたちが休校でも忙しい職種だったので、留守番をする子どもたちが心配でした。

- ・障害の子供にコロナについての理解が難しく、外出時、行動制限を理解できず今まで通りに遊ぼうとしたり、店舗の営業時間短縮にも納得できず不満の様子だった為、帰宅させるのに大変だった。
- ・実家も遠く頼れる人がいなかった。
- ・共働きの為、子供1人で過ごす時間が増えて精神的に影響があるのではないかと心配。
- ・仕事の休憩時間に自宅に戻ってきて昼食の準備とトイレ介助をしなければならなかった。
- ・行きたい施設や公園に行けないことを理解させることが難しく困った。
- ・仕事が休めず一人で留守番する事が増えた。
- ・親が持病等の定期通院があっても子供を連れて行かねばならず、困った。

#### **f. 養育者の心身の疲労、健康上の心配（17件）**

- ・睡眠障害があるので子供は寝られても自分は寝不足でつらかったです。寝ようとしてもストレスからなかなか寝付けずに尚更寝不足。イタズラが増えて休校中はなかなか座る事も出来ませんでした。
- ・とにかく疲れた。
- ・外に自由に出られないので気晴らしができなかった。
- ・仕事がむしろ忙しい時もあり、子供は部屋を散らかし放題で、心身共に疲れた。
- ・介助の身体的負担も大きかった。
- ・付きっきりの為精神的にも体力的にも大変だった。
- ・仕事をしているよりも強い疲労感があった。
- ・介護の負担が増し、親の体の不調が続いたが、病院に行く時間も余裕もなく限界を感じました。
- ・いつまで続くのか先が見えなくて不安が強い。
- ・頭がぼーっとして考えがまとまらない。不眠に悩んでいるので精神科から眠剤と精神安定剤をもらって、服用し何とか今をしのいでいる。
- ・子どもも親も、見通しのつかない生活で疲れた。
- ・マスク拒絶で練習したが、✕。ストレスになると思いあきらめた。
- ・短期入所などができなくなり、介護などの休息ができず寝不足になった。
- ・母が妊娠中で、子どもは体格が大きく全介助なので、身体的負担が大きかった。
- ・親子2人の生活のため、自粛期間から2人きりで居るので…人との関わりがない事が不安で気持ちを保つ事が切ないです。
- ・一週間に一回ぐらい息抜き出来たら良いなあ〜と思った。
- ・介護の負担が増し、親の体の不調が続いたが、病院に行く時間も余裕もなく限界を感じました。

#### **g. 地域や社会的支援の困難（9件）**

- ・デイサービスの施設の方針で施設の利用者は病院のリハビリを一時休まざるを得なかった。
- ・放課後デイサービスの時短で3時間のみの利用になった。買い物はその間に急いで買いに行くなどした。宅配ネットサービスは停止しており利用出来ず直接買いに行くしかなかった。
- ・預かり先が少ない、ない。
- ・しばらくの間はデイサービスも使えなくなったので、デイサービスがなくなってしまう不安もありました。

・放課後デイサービスが再開してからは、私も少しずつ落ちつきましたが、引っ越した場所であったため、頼れる人が1人もいず、もし家族誰かが1人でも調子が悪くなっても頼れる人もいず、かなり気持ちが沈んでいました。

・放課後児童デイサービスもしばらくは再開しなかったので、毎日となるとずっと自宅で子供と過ごすことは、お互いに時間を持て余し気味だった。

・家族でコロナ感染陽性になった場合、親がなったら子供はどうなるのか？親子で別々でコロナで入院や自宅待機となると不安。

・医療物品不足。

・もし障害のある子を抱える家で誰かが感染したら母子で入院出来るのか、それよりも、持病があり確実に弱いであろう障害のある人達の検査はどうなっているのか…知りたいことが全くわからなかったのが、一番困りました。困ったというか、不安に押し潰されそうでした。今年の冬もそうなるのでしょうか…。

#### **h. 周囲の視線、差別（8件）**

・一緒に外出しても子供がマスクをつける事が理解出来ないので着けられず、白い目で見られたりするので他の方から離れていました。

・マスクをつけられない、大声をだしてしまうなど、以前より外出先での気遣いが増えた。

・マスクができないため、買い物に連れていけない(よだれを垂らすので、今まで以上に人目が気になる)。

・マスクをつけられないので、外出すると、まわりの人の視線がつかかった。

・気分転換に買い物へ連れ出せば、わざわざ連れ出さなくても、など出先で心ない言葉も言われた。ほぼ、家にいた。

・療育センターでは、理解があり大丈夫であったが、その他の場所でなだめるのに本当に苦痛だった。

・マスクをつけなきゃいけないと理解させるのが大変だった。周囲からは知的障がいは一見普通に見えるので嫌がって知らぬ間に外してしまっていると注意されたりした。

・感染者が多い地域在住のため、他市町の保護者から差別を受けた。

#### **i. 学校に対する不満（8件）**

・学校は行政指導により、安易なイベント中止で終始することなく、あるべき教育とその教育の結果を見据えて邁進して頂ければ。

・学校の存在意義、役割、あり方について真剣に悩んだ。

・普段の通学は公共の乗り物を利用しているので、分散登校の際に利用できるバスの便が運休になっていたことから、分散登校時の通学に支障があった。

・医療的ケアに必要な物品が手に入らず焦りと不安が募り辛かった。

・子供が持病でよく発熱するが、コロナのせいが見分けるのが怖かった。

・学校のバス停が遠く雨の日は地下鉄を使う必要があるがコロナの観点からも不安。支援学校は一切バス停変更を検討する気がなく不満、不安。行動してくれないと何も変わらないので教育大学からもフィードバックしてほしい。

・養護学校は人数が少なく、デイサービスの方が人数が多くなり密な状態になるので、その矛盾があまり納得できませんでした。

・重度障害児にとって学習を受けられる貴重な就学時間なのに、コロナ対策休校により、また一時預かりなどでも教育を受けられず焦りを感じました。また自分に(親に)学校の先生のように勉強を教える力がなく、試みましたが上手くいかず精神的に落ち込みました。完全対策を更に練る必要はあると思いますが、子どもの為に学校は休校してはいけないと思いました。

#### j. プラス意見 (4 件)

・困ったことはない。触れ合う時間を有効にし、ふだんならしないことや一緒に出来ることをたくさん出来た。

・我が家は高校生と大学生 3 人なので、仕事に出た間の過ごし方が次第に上手になり、ご飯の支度、お風呂準備等助かりました。

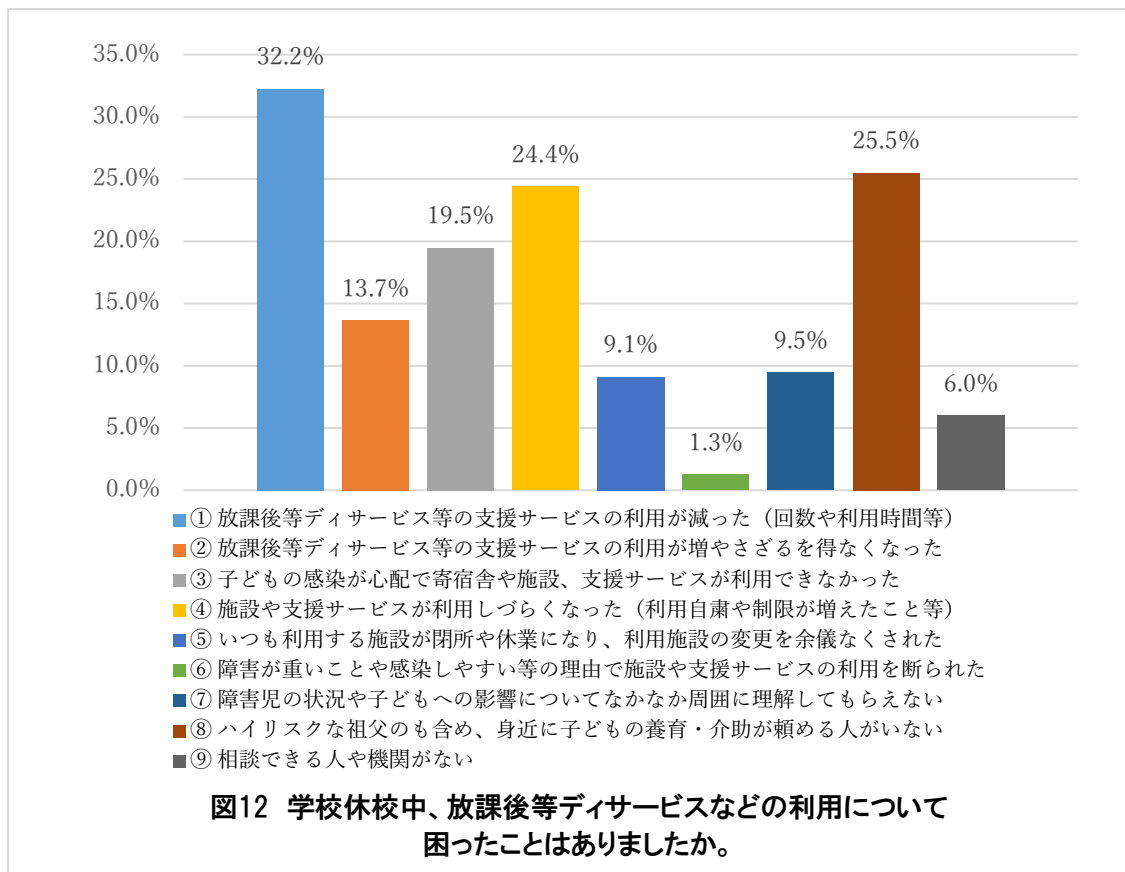
・逆に家族の絆ができた。

・虚弱ですぐにかぜをひくため、感染が心配で学校の休校はありがたかったです。休校になる前はむしろ早く休校にしてほしいと思いました。今後、第二波、第三波がきたときに、親の判断で学校が休めるのか不安です。

#### (7)福祉サービス等で困ったこと(複数回答)

福祉サービス等で困ったこととして 3 割以上の保護者が「放課後等デイサービスの支援サービスの利用が減った(回数や利用時間)」と回答した。また、4 人に 1 人が「施設や支援サービスが利用しづらくなった」「ハイリスクの祖父母も含め身近に子どもの養育・介助を頼める人がいない」と回答した(図 12)。同様に自由意見でもいつも利用している福祉サービスが休止や利用制限によって保護者の就労や健康に大きな負担を強いていたことがうかがえる。さらに、高学年の子どもが利用できるサービスがない、地域外の学校に通っている子どもが居住地での施設の利用を断られる、ショートステイや入浴サービスが利用できなくなった等、必要としている子どもや保護者が福祉サービスを利用できない実態が見えてきた。また、非常事態だから支援が必要になっても頼める人がいないため、感染リスクの高い祖父母に預けざるを得ないケースも少なくない。

一方で、自由意見で施設等への感謝も多く寄せられた。放課後等デイサービスは子どもや保護者にとって大きな支えとなっていることがうかがえる。しかし、公的機関である学校の一時預かりは少なく、脆弱な体制の施設に大きなしわ寄せがいったことも今後の課題である。



## <自由意見>

### a. 福祉サービスの休止や利用制限等による影響、あるいは長時間利用による影響（22 件）

- ・ 支援先が休みになったり、短くなり、体の負担が増え、体力的に限界だった。
- ・ 利用開始時間が遅く仕事を遅らせていけないといけなくなった。
- ・ 言語訓練もしたい、運動療育もしたい、けれども 1 日 1 ケ所しか放課後等デイサービスを利用できない為、言語訓練か運動療育かの選択を迫られた。
- ・ 1 カ所のサービスしか利用していないので、利用できないときに困った。
- ・ 土曜日の利用を控えるように言われた。
- ・ 学校が休みになったとき、デイサービスも短時間の利用となり、仕事もあり、途中で迎えにいけないため、預けず、兄弟だけでお留守番してもらっていました。とても不便でした。
- ・ 祖父母がいるため、利用を断られ、祖父母が体調を崩してしまった。
- ・ 頼みの綱であるデイサービスさんも利用制限があり、ほぼ自宅で過ごす毎日。日中一時支援も月 8 回とゆう決められた枠では仕事が毎日あっても見てもらう事は出来ず、早朝や深夜に仕事をする他なく、睡眠時間がまともに取れず辛かった。
- ・ 札幌の病院を定期的に利用しているが、札幌にいくと 2 週間放課後等デイサービスの利用ができなくなり、不便だった。
- ・ 施設側が自宅での外泊に賛同的でなく、一時帰宅させるのが苦労した。
- ・ 福祉風呂が使えなくなった。その後特別に開けてくれた。

- ・感染予防からサービスの利用時間が短く、買い物するのがやっとだった。
- ・デイサービスの利用時間制限により行動援護を利用したが上限の 30 時間では全然足りず仕事を休まなければならなかった。
- ・児童デイサービスの時間の短縮があり、仕事の時間を削らなくてはならなかった。
- ・預かりの時間が短縮されたり休業日が増えたことでパートに行けない日があったり日常生活に負担が増えた。
- ・ショートステイが休止になり、母親の外出が不可能になった。
- ・福祉サービスも休みになるため、頼めなかった。
- ・デイサービスやショートステイも休みになってしまい、障害児だと年齢は高くても一人で留守番が難しいので共働き家庭は厳しいと痛感した。本人もお友達と会えなくて寂しそうにしていた。
- ・デイサービスが大好きなので、デイサービスも休業になってしまって、どうして行けないのか理解出来ないで困りました。
- ・2つ行っていたが、一つは、4月～休館になり、一つの所だけお世話になった。
- ・長時間預けざるを得なくなったため、日中一時支援などを利用したため、利用料金が高くなってしまった。
- ・利用料金が増えた。

#### **b. 施設等での感染不安（7 件）**

- ・支援サービスを利用している他児で、感染予防ができていない子（マスク着用も含め）やできない子がいるので、感染の心配があった。
- ・接触介助が必要不可欠なため、確実に濃厚接触者になってしまうが、施設内でしっかり感染対策がなされているかを見てわからないため不安です。
- ・利用中の 2ヶ所の放課後等デイサービス、1ヶ所はコロナ陽性者が出てしばらく閉所、もう1ヶ所はマスク着用を徹底できない小児や重度障害児が多く、利用に不安を感じています。
- ・基礎疾患があり感染が心配で一切預けられなかった。
- ・重度の呼吸器疾患であり、いまだに、医療、福祉等のサービスを受けるのを躊躇している。病院等、保健所、福祉施設は行かなければならないが、前の通院と何らかに対応に変化なく、待合室等何らかの障害児用の対策をしていただき、他の人と、接触する危険性を減らして欲しい。
- ・衛生面で徹底できるか心配だった。
- ・外に出ることが悪いかのようなイメージのマスコミ報道によって本当に外に出られなくなり、母親自身、9月になった今でも何となく体が外に出ることを拒否している。自閉症の息子は誰かが迎えに来てくれないとスクールバスにも乗れなくなった。学校の先生や放課後等デイのスタッフさんに朝迎えに来てもらうことで何とか外に出られているが、これから先が不安。

#### **c. 困ったときに利用できない（13 件）**

- ・本人が高校へ入学したら放課後デイは使わないと言って使っていないのですが手続きをしなくても月に何回か利用出来る制度があると身寄りがなく預ける事が出来ない私みたいな人は助かるのではないでしょ～か。光熱費、食事の負担も、かなり凄いです。

- ・働いていない保護者は、デイサービスを利用しないように言われて、自宅以外の活動があまりできず、施設に慣れさせるのに困った。
- ・専業主婦の為、子供の気分転換に預けたくても受け入れしてもらえなかった事。
- ・子供の年齢や内容に合うデイサービスが、地域にない。
- ・私たち障害児の家族は福祉サービスが受けられないと非常に困ります。リスクや自粛など、施設側の事情もわかりますが、こういう時こそ、福祉は敏速に対応出来る場であってもらいたいです。
- ・町外の支援校に通っているため(〇〇町には支援校がないためです)児童デイを断られた。町外の学校に通っている子は受け入れられないとのこと。大変困りましたし、断られる理由が理解しがたいです。(中学までは〇〇町の学校に通っていましたので、日中一時支援を受けていました)
- ・緊急に利用できる場所がない。
- ・15歳以上の子供が利用出来る場所が無い。
- ・預かり先が少ない。
- ・ショートステイの受け入れ先が、無い。
- ・利用できるサービス自体がない！
- ・居宅支援のお風呂介助が利用出来ず結構しんどかったです。
- ・コロナ関係無く、子供が利用出来る施設は少なく。色々な理由から、完全に親だけで育てております。コロナが蔓延した事により、ただでさえ利用出来ていた機関が、休止になり。今後の課題に感じました(無理に何かを利用したいという訳では有りません)。

#### **d. やむをえず自粛（9件）**

- ・利用時間を減らしたり、回数を減らしました。
- ・休校期間中に一度熱を出し、解熱後2週間、サービス利用を自粛した期間が母子共々どこにも行けずに辛かったです。
- ・デイサービスの利用規制は緩やかだったが、障害の重い子を利用優先のほうで、その子の親も助かるだろうと考えデイサービスは全ての日にちを利用しなかった。
- ・放課後デイでケガをさせられ安心して長い時間預ける事が出来なくなりました。
- ・利用したい気持ちと、感染するリスクのどちらを取るか、非常に悩みました。
- ・デイサービスはやっていたが本人が不安になり行けなかった。
- ・利用者のソーシャルディスタンスを保つのは至難の業だと思い、利用できなかった。
- ・COVID-19ではないと思われる発熱等でも(子ども自身、ヘルパー等の支援者どちらでも)、いつもより利用を慎重に考えた。結果家庭への負担が大きくなった。
- ・学校へも事業所へも行きたくない、という日が続き、祖父母が日中は預かっていた。機嫌が悪い時の対応など、普段深く関わっていない為難しいことが多かった。

#### **e. 施設スタッフや制度の問題（4件）**

- ・移動支援のサービスはあるが、支援員が確保できず利用できない。
- ・デイサービスをもう少し利用できたらいいなと思います。それには環境や人手不足もあるので何とか金銭面を含めた人材確保もしてほしい。

- ・送迎が追いつかないとの事で、親が送迎をする事になったが、近隣住民からの視線が辛かった。
- ・夏休み学童に我が子を預けると先生が1人付きっきりに近い状態になるためシフトの関係で他の健康児と同じように毎日利用することができなかった。

#### **f. その他(要望等) (6件)**

- ・父に身体障害があるため元々狭かった行動範囲がさらに狭まり、気晴らしで外出することも難しいので、子供だけでも行動支援的なサービスが使えればありがたいのになあ、と…。
- ・探しているサービスや情報に行き着くのが難しい。
- ・海外転勤の可能性があるが、社会が障害ある子供がいる場合は海外にいく仕事を諦める前提で動いており、本当に障害のある子の親の役に立ちたいと思うなら、教育大学はじめ大学からも変化を起こしてほしい。
- ・放課後デイサービスでの感染が心配で利用を少なくしたところ、事業者からかなり熱心に元のように通うよう求められて困りました。経営が大変なのかと思いますが、それ以来なんとなくギクシャクしています。
- ・放課後デイサービスは充実していますが、土、日、祝日、夜間のサービス提供を充実させてほしい。
- ・区の放課後デイサービスが休みになり、もう一つ利用していた民間の放課後デイサービスを主に利用していた。学校が預かりをしてくれたので、パートの日は学校にお願いして、デイはたまの利用で済んだ。他の学校は、預かりの条件が厳しかったので、条件なく学校を利用できていたうちは、放デイをあまり利用しない様にしていた。

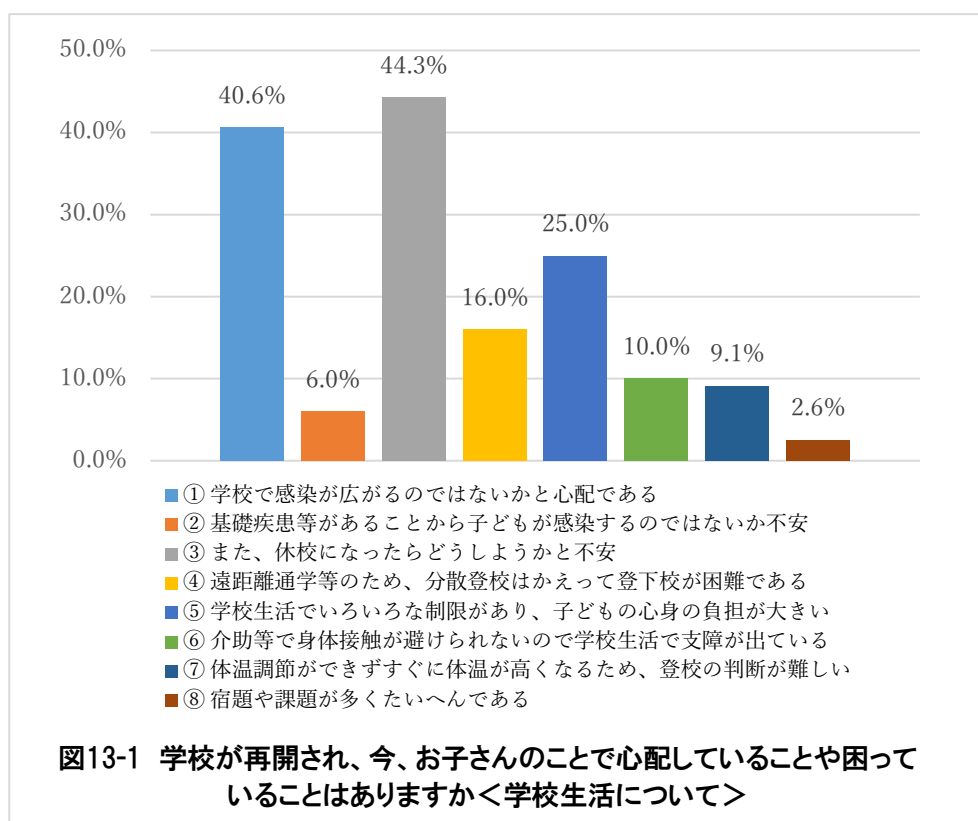
#### **g. プラス面 (6件)**

- ・困ったことはない、むしろ学校側の福祉サービスの役割についての理解が乏しいことに困ったことだと感じた。
- ・コロナ予防のため放課後等デイサービスを利用する人が減ったため、逆に利用しやすくなり、我が家は利用を増やすことで、親子間の精神的なバランス維持が出来たと思う。
- ・デイサービスを利用したかったが、コロナ感染予防を考えると、進んで利用することはできなかったし、デイサービスの方々もかなり気を遣ってくれていました。それはとても感謝しています。
- ・自粛の一定期間、閉所になったが、その後開所してから、空きがある日にはできるだけ入れてもらえて助かった。また、よく知っているB型事業所も困っているだろうと声を掛けてくれ、3日間だが体験実習を受け入れて貰えて、娘のモチベーションをあげることができて感謝している。
- ・子どもが通い慣れた放課後デイサービスを利用させたかったですが、学校の教室よりも放課後デイサービスは狭く、校庭のような屋外施設も持っていないので密になることが不安でした。結果的にはそのデイサービスはかなり綿密な対策をとっていたので不安を解消し利用させてもらいました。利用でき生活する為にとっても助かりました。
- ・通っていた児童デイは休所などなく、対策をした上で受け入れをしてくれて助かった。

### **(8)学校再開後の不安や悩み(複数回答)**

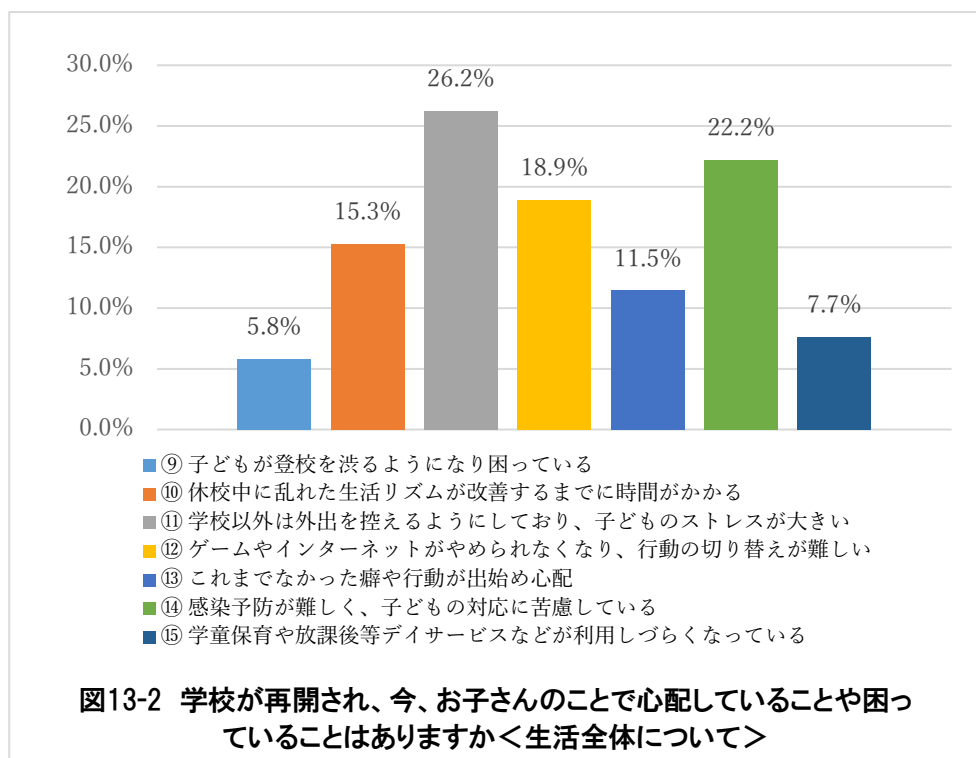
#### **① 学校生活についての不安や悩み**

学校生活についての不安や悩みは、4 割以上の保護者が「また、休校になったらどうしようか不安」「学校で感染が広がるのではないかと心配である」と回答し、学校が再開しても不安が続いている。また、4 人に 1 人が「学校生活でいろいろな制限があり、子どもの心身の負担が大きい」と感じていた（図 13-1）。学校生活の継続を望みつつ、学校での感染予防やそのことによる活動の制限などに不安を抱いている様子がうかがわれる。



## ② 生活全体について不安や悩み

生活全体についての不安や悩みで一番多かったのは「学校以外では外出を控えるようにしており、子どものストレスが大きい」26.2%、次いで「感染予防が難しく、子どもの対応に苦慮している」22.2%、「ゲームやインターネットがやめられなくなり、行動の切り替えが難しい」18.9%と続く。また、「休校中に乱れた生活リズムが改善するまでに時間がかかる」15.3%と、学校再開後も休校中に増えたゲームやインターネットの時間や乱れた生活リズムに苦慮している保護者が一定数いることが分かった（図 13-2）。自由意見でも学校再開後も子どもの体調面や生活面での影響が続いていることが述べられていた。



## <自由意見>

### a. 子どもの体調面での心配（5件）

- ・寄宿舎生活ですが、毎日時間に追われていてゆっくり出来ず、体調も崩しやすくなりました。
- ・深い呼吸を、することが多くなった。
- ・円形脱毛症ができた。
- ・周りの子どもが落ち着かないため、影響を受けて落ち着かなくなり、イライラしてしまった。
- ・見通しが持てない状況なのと、行動に制限がかかっていることが本人のストレスになっているのでその辺は心配していますが、学校の先生方が色々と配慮して下さっているのでとても助かっています。

### b. 子どもの生活面での心配（4件）

- ・しばらくは生活リズムが乱れたままで、睡眠時間が少なくなり、日中に情緒不安定になること（大声を出す、テンションが急に下がって泣き出すなど）が多かった。
- ・当初、常にマスクをしていることが難しく、好きな色の不織布マスクを購入したり、好きな柄の布マスクを作ったり、本人がつけてくれるマスクを探るのに時間がかかった。
- ・学校生活にやや馴染めず、睡眠の乱れがある。
- ・夏休み前は落ち着かなかった。

### c. 登校や学校生活への影響（7件）

- ・学校の授業で、プールがなくなったり校外学習や移動教室、調理実習もなくなったりして、学校生活で楽しいことが減って、学校に行きたがらないことが増えている。

- ・学校に行くのが嫌だ、家がいいと言うようになった。
- ・行事等、再び中止などがあるのではと、不安や心配をしています。
- ・慣れるまで時間がかかった様に思う。
- ・2月後半からコロナの心配から自主自粛をし、そのまま学年が変わり担任が変わってしまった。他の学校からの先生だった為に慣れていない先生で、学校再開後、登校をしぶるようになった。今は少し慣れてきて普通に登校しているが国語算数の教科担任が理由不明のまま休職してしまい、コロナなのか？と不安になっている様子です。
- ・新しい先生に慣れるのが大変。
- ・夏休み中や、学校生活で、就労に向けた企業への実習がなくなり、就労に向けた学習の機会が奪われたので、不安がある。

#### **d. プラス意見（1件）**

- ・以前より、学校生活やデイサービス&移動支援をととても楽しみにするようになり、この短期間で、すごく成長が見られているので、色々と不安はありましたが、登校初日から休校していたとは思えないほど、すんなりと元の生活に戻れたので、むしろ、休校したことが本人にとって、よかったのではないかと感じるほどです。

#### **e. 要望等（1件）**

- ・学校は楽しく行けているので余程のことがない限り開校してほしい。

### **(9)今後の支援について(複数回答)**

#### **① 学校に対して**

学校に対しては、6割以上の保護者が「感染予防を徹底してなるべく制限のない学校生活」を望んでいた。また「今後の休校になる基準を示してほしい」42.6%、「子どもや保護者に細かく情報を伝えてほしい」35.7%など、今回のような突然の休校措置やその後の対応に関する情報の遅れや基準の明確化などを求めている保護者が3割～4割ほどいることが分かった（図14-1）。

自由意見でも学校に対しての要望がたくさん挙げられている。体温調節が難しいケースの対応やスクールバスでの感染予防、集団生活である寄宿舎での対応など、特別支援学校独自の課題がある。

また、遠方の学校に公共交通機関などを利用して通わなければならないことから、公共交通機関における感染対策を求める声、逆に遠方まで通わずにすむように居住地域に通える学校や子どもを預けられる施設があればよいとの意見、あるいは自営業など職住分離が難しい状況で、子どもと一日過ごさなければならない状況への理解を訴える声もあった。母子世帯など、子どもを家に置いていけない家庭からは、買い物支援など、日常生活にかかわる支援を求める声もあった。

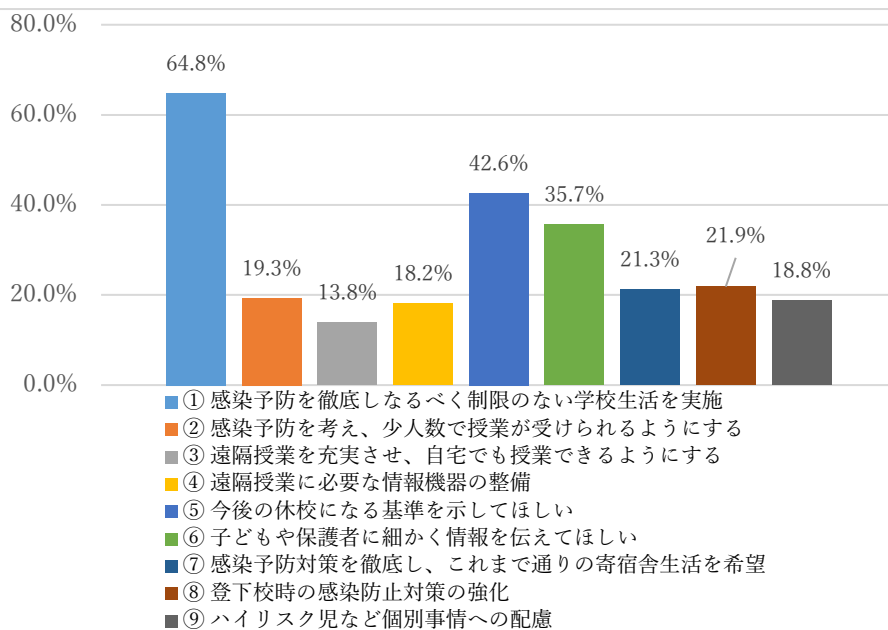


図14-1 今後の支援についての要望をお聞かせください。  
＜学校に対して＞

## ② 国・行政に対して

国・行政に対しての要望で一番多かったのは、「障害児専用の相談窓口や支援の充実」53.6%、次いで「感染予防のための施設の改修・改善」47.0%、「就学奨励費の改善による負担軽減」34.2%、「障害児が安心して過ごせる施設等の確保や充実」31.9%と続く（図 14-2）。半数以上の保護者が、コロナ禍における相談・支援体制の充実を望んでいた。自由意見でも就労のためや家族が感染した時の子どもの預け場所に関する要望が多かった。また、障害児やその家族への理解についての意見も多く、障害児に対する教育・福祉の課題がコロナ禍でさらに浮き彫りとなったといえる。

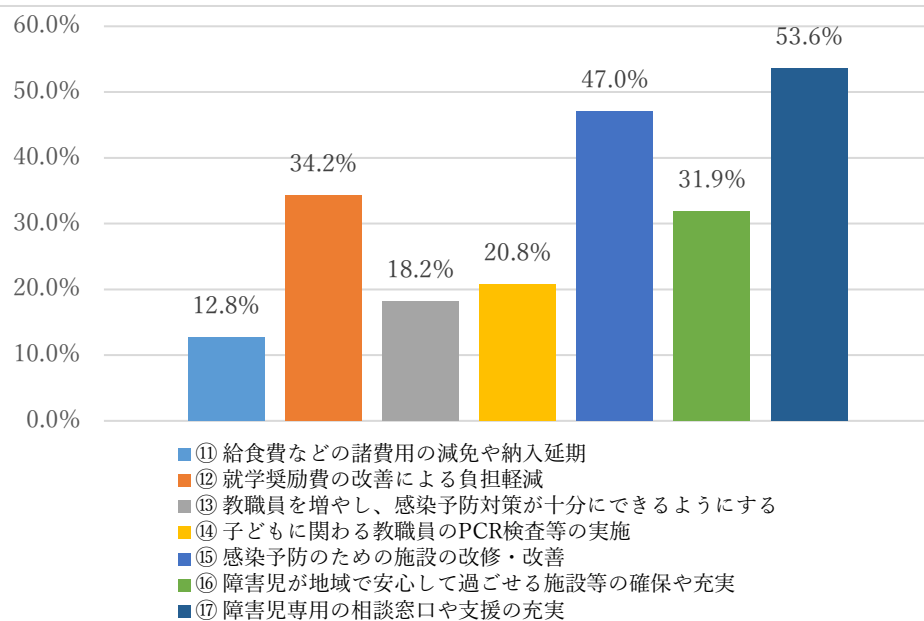


図14-2 今後の支援についての要望をお聞かせください。  
＜国・行政に対して＞

## <自由意見>

### a. 預け場所（19 件）

- ・学校が遠く、新宿や池袋を通る電車に乗らなければ通うことができなかったため、最近まで登校を控えていました。短い時間でよいので、近所で過ごすことのできる場所があればよかったと思います。
- ・学校のように公共の預けられる施設を作ってほしい。
- ・放課後デイサービスがなかったら、母も子ももっとストレスが溜まったと思います
- ・安心できる場所に子供を預けられ、数時間でも子供と離れることができるのは両者にとって良かったです。
- ・息子が感染した場合、主人は1人で過ごせるので、私が付き添って隔離生活をすることは可能ですが、私が感染した場合、母は末期癌患者ですし、妹は東京在住なので頼れず……唯一の身内である義妹は高齢の両親と子供2人と暮らし、働いているので頼れず……重症化したときに、どうしたらよいのか不安しかありません。なので、異常なほどの引きこもり生活をしており、これといって何かあったわけではないのですが、人と接しない生活を送っている自分の精神状態が大丈夫なのか？と、心配になることが、たまに、あります。
- ・父母が感染した場合に子供の世話をどうしたらよいのかがとにかく心配です。
- ・もし、両親共にコロナに感染して入院となった場合に、子どもの預け先がない。一緒に入院は可能なのでしょうか？そんな親子は沢山いると思うので、障害があるないに関わらず、親子や家族で安心して入院、治療ができる体制を整えてほしい。その際の費用も補助して頂きたいです。
- ・感染した場合(家族、本人)の、行政サービスを充実してほしい。祖父母、親戚等の助けが得られないため
- ・両親が感染し、入院になった場合、誰にも預ける事ができず、自分では、何一つ出来ないの、とにかく心配。どうしたらいいのでしょうか？
- ・会社勤めの方ばかりではありません。我が家のように、自営で、自宅で仕事とゆう家庭は子供を見ながらいつも通りの仕事量をこなさなければなりません。その間子供が怪我をしないか、危ない物を手にしないかをずっと見ていなくてはならず、結果仕事になりませんでした。早朝や深夜に雑務や仕事を少しでもこなして日中は子供から目を離さず、極力いつも通りの時間を過ごさせるように心がけましたが、睡眠がまともに取れず、両親の方が参りました。
- ・母子家庭なので子が感染した場合どうなるのか不安、親の感染も同じく。PCR 検査を保健所や病院でうまく出来ないのではないと思う。
- ・放課後児童デイの利用時間が3時間と決まっておりました。休校等あった時は就労している世帯には時間を長く預かってほしいです
- ・感染予防をできないのに、スクールバスなど密な空間にはいなければならないので支援学校は休校でも良いと思う。その際にデイサービスは利用できるようにしてほしい。
- ・家族や本人が感染した時にどうすればいいのかとても不安です。隔離は難しく、マスクはできない。動き回れるスペースが必要。テレビや音が無いと落ち着いて過ごせない。本人はベッド上で安全に過ごせないので入院も難しい。以前大腿骨の骨折をして手術をしましたが、入院が難しく手術してから2日後に退院をする羽目になりました。本人が感染して軽傷の場合、母が自宅で付き添い、他の家族をホテ

ルなど隔離できる場所を用意してもらえると助かります。家族が感染した場合も直ぐに入院かホテルでの隔離ができるよう配慮していただけると有難いです。自宅待機は難しいです。

- ・介護者である自分が感染したら子どもの世話をどうしたらよいのかわからない。
- ・体温のことです。家の息子はてんかん発作、誤嚥もあり、体温は比較的高めです。利用している訪問リハビリの規定で37度5分を超えるとリハビリ出来ません。先日、37度5分でリハビリできませんでしたが、そもそも発作で脇がしまり緊張が高いことが熱が上がる原因なのですが、リハビリ出来ず…というのは本当に残念です。ご時世で仕方ないと諦めています、平熱36度の人と平熱37度の人では発熱の基準を何とかして欲しいです。(あくまでも他に不調がない時の話です。)
- ・親が感染して入院した時、障害者を預けられる場所があると安心です。
- ・1人で留守番できないので、休校になった場合デイサービスの時間が短くなり仕事の日の預け先がないのが課題。時間延長など気軽にできるようにしてほしい
- ・重症児なので、基本、入院となると付き添いが必須なのですが、新型コロナの場合、隔離されると思うので、障害児がなくても、介助者の親がなくても離される、親がなったら誰が介護するのか心配です。

## **b. 学校に対して（19件）**

- ・帰りのスクールバスの本数が少ないので、多くしてほしい。もしくは、感染対応をきちんとした市の送迎サービスを充実させてほしい。
- ・修学旅行が実施予定だが、校外での学習は心配。
- ・学校からの連絡が不足している。
- ・養護学校は小人数なので、休校はやめてほしい。デイの方が密だ。
- ・マスクを正しく着用出来ていない教師、児童がいたり、一部教師がマスクではなくマウスシールドやフェイスシールドをしていて、飛沫・エアロゾル感染が起きるのではと、とても心配しています。マスクの正しい着用の指導とマウス・フェイスシールドの使用の見直しをお願いします。
- ・軽い風邪等で本人が元気な時、学校からの要望でのお休みで校長の認証を受けたおやすみは、病院受診し証明をとった上で、職場も特別休暇を使用できる体制を取れるようになったら、職場に気にする事はなく子供とお休みできます。そのような体制になればいいなと思います。
- ・スクールバスの密を回避するため、バスを2台で運行してほしいが、介護員さんが見つからないと学校から聞いている。インフルエンザや風邪が流行る前に、何とかしてほしい。
- ・聾学校は児童数が少ない（最大でも4人クラス）ので感染予防対策をしていれば休校にしなくても良いと思う。休校にするなら、聾学校の先生が、口話+手話を使ったZOOMで授業をして欲しい。新しい単元をプリント配布だけで、自習させるのは限界があると思いました。
- ・学校で保護者を集めた懇談会が毎月あるが、三密回避の観点から、文書で済む内容なら文書での伝達で済ませて欲しいと要望したが聞き入れて貰えず、出席を強要されるので困っています。母子通学の学校で保護者は保護者控室に待機しているが、保護者控室で給食を取り分け会話をしながら食事をするなど感染対策ができておらず、感染しないか不安です。学級で食事をする際に、先生は人との距離を取り別室で食事をしているが、職員室では対面で飲食や会話をするなど感染対策がなされていません。見えるところでは感染対策をしているが、職員室で感染対策を怠っているのが不安でなりません。学校が再開してから3か月を過ぎましたが、コロナ感染対策に気の緩みが目につくようになり心配です。

・障害者だから多少の遅れは問題ないだろうではなく、むしろ障害者だから日々の指導は不可欠です。今まで学校で積み重ねて出来ていたことも自粛期間中は預かるだけだからということで着替えも全くなく、とうことが残念でした。預かっていただけは有難かった反面、預かるだけという対応にもう少し何とかならなかったかと辛かったです。

・体温調節ができず、すぐに 37.5 を超えて何度も迎えに行った。迎えに行くのは保護者として何とも思わないが、そのたびに病院へ行っても何の検査もできない。朝になれば下がるわけでもないから、復帰のタイミングがない。三日間 37.5 以下と言われても出来なかった。最終的に血液検査をもらい、CRP などが異常ないことも明らかにしたが、37.5 以下の要件は変わらなかった。学校も対処に困っていたように感じるが、学校側には優しさも感じられたので基準を作る難しさを痛感した。

・今後の支援は今後の状況により多様に変化すると考えられるため、柔軟な対応をお願いします。休校が続くと支援学校で学ぶ生徒の就職はなかなか難しいとも聞かため、親も神経質になると聞きます。

・ある程度安心して公共交通機関を利用して通学できるようになることを祈るばかりです。

・以前のように、実習をさせてあげたい。

・コロナ渦中、普通校ばかり注目されがち、高等支援卒業したら就労する側としては、継続し学ぶこと自体がなくなる為、部活動の代替え大会など、考えて欲しかった。

・参観日がなくなり、子供の様子がわからない。

・これからが感染症流行の本番を迎えると思うのですが、学校で変わったことと言えば体温を測ることとアルコールの手指消毒とマスクをすることぐらいだと思います。寮では相変わらず 4 人部屋、風呂も食堂も使い方はさほど変わっていない様です。各家庭にそれぞれの事情があり感染に対して敏感にならざるを得ない所も多々あると思うのですが、そこから見ると学校の対策はとても十分とは言えるものでは無く、出来れば各家庭に意見を聞いて寮にそのまま居させるのか、学校に通わせるのかを聞いて不安の感じている家庭には無条件で休みを認めるなどの対策が必要だと思います。この感染症はまだまだ収束を見通せません。ウイズコロナを唱えそれぞれが感染予防をする様にとするならばその選択肢が無いと矛盾が生じてしまいます。

・学校が再開しても、教師とのコミュニケーションが取りづらい。また、感染予防と言うことから、玄関にも入れず、子供がどのように学校生活を送れているのかも見る事ができない。

・これからどのような状況になるかわかりませんが臨機応変に対応していただければと思います。

### c. 障がい児やその家族への理解（11 件）

・このような事態を理解出来ない障害児を世間から置いていかないでほしいです。

・障害のある子がいても親が海外含め転勤の伴う仕事を諦めなくてよい社会を作るために何をすべきか、大学でも考え実際に動いてもらえますと嬉しいです。

・健常児は大きければ休校になっても負担は少ないです。障害児は年齢に関係なく負担は大きいです。それをわかってもらいたいです。

・学校や福祉サービスさんは、とても良くしてくれています。ただ、近所の方などの差別的な雰囲気が強いので、独り言の多い子供との散歩も親が気後れして躊躇してしまいます。もし我が家がコロナになれば、今まで以上に住みにくくなりそうで心配です。

・子ども達へは感染拡大していないことへの対応がないのはなぜ？（ママ）

- ・障害児にコロナのことを理解させたり、消毒の習慣づけるのはむずかしい。
- ・自動消毒機やパーティションなどの配布、子供たちにも受け入れ安い工夫をして欲しい。
- ・今年度から会計年度職員として新しい職場に勤務したが、休暇のことが周知されておらず、災害事故休暇はだいぶ経過してからやっと取れることになった。
- ・地域にいれば、マスクをできないことを施設や店側が理解してくれていれも、すれ違う人たちには娘がなぜマスクをすることができないのかが理解されず、ただ、ただ、このご時世一才児でもマスクをしているのに!!と、言わんばかりの流し目で見られる。私は親だからそれでも一人では置いておけないんだし!買い物は娘にとって散歩と同じだけ楽しみなことだからと自分に言い聞かせています。ですが、ふとなぜ、こんな思いをしなくては、いけないんだろうと、考えてしまうときがあります。
- ・何せ、障害を持つ人にとって差別だらけでいきづらい。また、受験シーズンに入っていて、教育相談等満足に出来ないまま、進路を決めざるをえない状況も困っている。
- ・体温調節が難しく、親が休まざるを得ませんでした。かかりつけ医や学校ではいつもの一時的な体温上昇と理解してもらっていましたが、親の職場では同居家族の発熱とされ、子どもも学校に行くことができない期間がありました。
- ・特別支援学校の場合、通っている高等養護学校も遠く、親としては公共交通機関での通学が(感染の)心配もありました。広範囲からの入学で寄宿舎生活のクラスメイトもいるため、ほかの学校より早く休校になりなかなか学校が再開されない状況でしたが、そういう時こそ特支の子に目を向けてほしいことを実感しました。家に籠りきりで孤立していたり、目が離せず親が疲弊していた話も聞きました。子どもの孤立が心配でした。やはり同じ年齢の高校生の子たちのように特支の子どもも(特支の子こそ!)困ったことがあっても身近に学校があり、安心できるよう地域の学校に通えることを今回のことからまたさらに強く実感しました。どうしていつまでも特支の子ばかりが地域から遠く離れた学校に通い寄宿舎生活なののでしょうか。我が息子は、兄妹のように自宅から通学を希望し、公共交通機関を利用し、片道1時間以上かけて学校に通っています。ずっと学校が好きなのは親として嬉しく思います。

#### **d. 国や行政の施策に対して（11件）**

- ・学校、児童デイサービスともに制限のある中で精一杯の対応をしてくれています。子供たちだけではなく、学校や施設、職員の方たちへの支援も大切だと思います。(予算の増額や補助、人員の確保など)働く方たちへの支援は結果として利用する子供たちの療育環境の充実に繋がると思います。
- ・学校の業務(消毒)がとても増えたので、教員を増やしてほしい。
- ・アルコール消毒や除菌ティッシュ、マスク等、感染対策に必要な物の費用がかかり保護者の負担が大きい。学校や寮で使う為に必要な物は、就学奨励費で申請できるようにしてほしい。
- ・地方では寄宿舎でのクラスターも発生しておりそこが心配。対策をしても避けられない状況もあるが工夫次第で変えられる部分もあると思うが教員の数が足りないと言われてしまうとそれまでの為なかなか言えない状況にはある。
- ・完全介助なので濃厚接触をしないと日常生活を送れない子なので周りの先生やヘルパーさんに気を使わせているのを申し訳なく思っています。又、預かる側への配慮が行き届いていないように思います。手に入りづらいマスクを自費で用意してくださっていることなど。
- ・放課後デイサービス等の訪問介護に対してきちんと国や行政が保障して、家から出られないでいる障

害児の生活の安全や親の相談窓口を確立できるようにして欲しい。

- ・未だに、消毒液が満足に入手出来ません（価格が割高です）医療行為があるので、絶対に必要不可欠です。国からも支援は有りましたが、アルコール綿だったので。現場と行政のズレを感じました（何が必要か、理解してないと感じました）コロナによる、引きこもり生活については。毎年、冬場（インフルエンザ流行時）の生活となんら変わらなかったのも、ストレスは感じませんでした。

- ・今後の学校生活…冬になり換気のため窓を開けたりしなければなりません…体温調節が難しい子ども達が多いので何か子どもの身体に負担が少ない感染対策をお願いしたい。しかしながら学校の先生はみなさん…今まで以上に努力し子どもたちのために必死に頑張っています。先生の感染対策のための労働軽減もお願いしたいです。

- ・国からの保証が少な過ぎる感じる。

- ・スペシャルオリンピックスの再開やその他の障害者へのボランティアへの支援。

- ・利用できる福祉サービスの日数、時間の増加。

#### **e. 経済的問題（7件）**

- ・コロナ禍にて公共交通機関でなく自家用車で送迎のため金銭負担が大

- ・感染対策として、寄宿舍で使うマスクは使い捨ての不織布マスクにしています。マスク代が就学奨励費の対象外だと知り、家計の負担が大きいです。せめてコロナ対策期間だけでも、限度額や枚数を決めて支給対象にしてほしいです。

- ・低学年までしか手当てなどなく、障害のある子供は中学だろうが高校だろうが預けるとこがなかったら仕事を休まなくては行けなくて入院なども重なり金銭的にも家族みんなが大変だった。来年の兄妹の進学費が用意できるか心配でならない。

- ・市が3月～6月まで福祉サービスの利用料を2月と同額にしていたのはとても有り難かったです。

- ・母子家庭の為、感染リスクと生活費の維持などどうしても沢山の悩みがあります。親類なども少ない為私が動けなくなると本当にどうにもなくなる恐怖と働かないと生活して行けない現実。何とか、生活保護を受けずに頑張りたいのでとても不安です。

- ・障がい世帯は、自費で必要な医療ケア用品を買うことが多いですが、コロナ禍では高額な代金を支払わないと買えない事が増え、金銭的な余裕がなくても買わなくては行けないので、とても辛いです。必要な医療ケア用品が、今までと同じ値段で買えるようにしてもらえるか、給付金や手当等を手厚くして、多少値段が高くても安心して買えるようにして欲しい。

- ・旦那の給料が減っていて、生活がかなり苦しく何かを滞納しながらなんとか生活している

#### **f. マスクなどの感染予防対策（6件）**

- ・マスク着用が難しいので、感覚過敏な障害者でも予防出来る物の開発があると助かります。

- ・病院が苦手なので、熱がでてPCR検査を受けられないと思うので、もしそうなったら考えると頭が痛い。

- ・困っていることは、マスクを嫌がり、付けさせるのが大変。

- ・予防接種など注射ができないほど暴れる人なので、他の対策はないか。

- ・マスク使用時の顔の肌の乾燥。
- ・学校も放課後デイサービスも感染予防対策をしっかりとしてくれているので心配はありませんが早くマスク等の制限のない生活を送らせてあげたいです。

#### **g. 家族のケア（4 件）**

- ・家族、きょうだいのケアも必要です。
- ・休校中は母の気持ちを吐き出す場が欲しかった。
- ・休校中、母親へのサポート必要。買い物代行や精神的な相談相手が欲しかった。
- ・一番困ったのが食料品の買い出し。店は早く閉店してしまうし、マスクできない子供を連れて行く事も置いて行く事もできず苦労しました。食料品の配送のサービス等の充実、配送料負担サービスなどを希望します。

#### **h. その他（4 件）**

- ・質問を読んで感じたことは、アンケート作成者の先生は子供にとって学校は楽しくよいところで、それが休みになったので困った、休み中利用した、利用せざるを得なかった放課後等デイサービスなどの福祉事業所などは、学校に比べて不満足なところであるという固定した観念をお持ちのようだという事です。逆の例、即ち学校に比べて非常に優れた事業所もあり、休みがもっと続いた方が有り難かったと思う保護者もおります。このことは特別支援教育に携わる学生を育てておられる大学の先生方がご自分の目で見、確かめられることをお勧めします。これには支援学校と事業所の双方を調査しなければなりませんが、是非ともそれに取り組み、双方の優れた点と解決すべき課題を明らかにし将来の教育とご自身の研究に生かして学校教育と福祉サービスの実のある連携に生かして頂くことを切に期待します。
- ・教育大の調査とのことで、一案として記載しますが、今後、こういう休校や自粛期間などがある場合、例えば教育大生のサークルや授業の一つとして、障害児(その子その子によりますが)、1日に数人でもほんの短時間でも預かってくれるような場があると助かります。
- それを例えば実習のような形で単位を習得するようになるとか、レポートの題材になるとか、学生にもこちら側の家族にも需要があるような学べる事が出来てくるとありがたいなと思います。
- ・ダメな大人が多過ぎるのでもっと危機感をもって考え行動出来ると良いと思いました。
- ・コロナによって色々困ったことはありましたが、事業所、学校の先生、相談支援員、回りの方々に助けてもらい今は落ち着いています。コロナでかなり振り回されましたが、学校自体その他配慮は十分していただいているのはわかっています。早く落ち着いてくれて、安心な生活ができるよう願っています。

**調査にご協力いただいた保護者の皆さま、学校関係者の方々に、御礼申し上げます。**

**【調査内容および報告書についての問い合わせ先】**

**〒085-8580 北海道釧路市城山1丁目15-55**

**北海道教育大学釧路校 小野川文子研究室**

**電話 0154-44-3376(直通) E-mail onogawa.fumiko@k.hokkyodai.ac.jp**